第2回 日本ジオパーク全国大会 2011
洞爺湖有珠山大会

Report of
the 2nd Japanese Geoparks Network Conference 2011
in Toya-Usu Global Geopark

ジオツーリズムを通じた観光地づくり
～変動する大地との共生～

Sustainable tourist resort developmant through Geotourism
- Coexistence with the Changing Earth -

報告書

第2回 日本ジオパーク全国大会
洞爺湖有珠山大会

ジオツーリズムを通じた観光地づくり ～変動する大地との共生～

2011

9.29㊍-10.1㊏

メイン会場：洞爺湖文化センター

（北海道虻田郡洞爺湖町洞爺湖温泉142）

私たちが暮らす日本列島は、地球の営みによって絶えず変動し、地震や火山噴火などによる被害を度々受けています。
その一方で、地球の営みは風光明媚な地形や私たちの暮らしを豊かにする恵みを生み出してくれています。
この地球の営みを体感できる各地の「ジオパーク」に関わる人々が、ここ洞爺湖有珠山ジオパークで一堂に会し、
「観光」「教育」「防災」などをテーマにジオパークが地域に果たす役割を考えます。

同時開催

★物産展 9.30㊎～10.1㊏
【場所】洞爺湖文化センター

★ジオフェスティバル 10.1㊏
【場所】洞爺湖ビジターセンター

★ポスター展示／児童生徒作品発表／フォトコンテスト展示 9.28㊌～10.1㊏
【場所】北海道洞爺湖サミット記念館 4号特設会場

9.29㊍
日本ジオパーク情報交換会 【開場】12:00～【会場】洞爺湖文化センター

9.30㊎
am 分 科 会 【開場】9:30～【会場】近隣各ホテル
第1「ジオパークと観光」 第2「ジオパークと防災」 第3「ジオパークと教育」 第4「ガイドの取組」

pm フォーラム 【開場】12:00～【会場】洞爺湖文化センター
【第1部】12:30～
①オープニングアトラクション ②開会セレモニー ③フォトコンテスト入賞者表彰 ④地元児童生徒による取組発表
⑤シンポジウム「ジオツーリズムを通じた観光地づくり～変動する大地との共生～」 ⑥大会成果発表

■基調講演1
岡田 弘
（北海道大学名誉教授）

■基調講演2
大島 直行
（伊達市噴火湾文化研究所所長）

■パネルディスカション
コーディネーター：渡辺 豊人
（独立行政法人産業総合研究所主任研究員）

【第2部】18:30～
■講演 倉本 聰
（作家）

■対談
伊藤 和明（NPO法人防災情報機構会長）
倉本 聰（作家）
三松 三朗（三松正夫記念館館長）

【主催】第2回日本ジオパーク洞爺湖有珠山大会組織委員会、財団法人自治総合センター
【後援】総務省（予定）外務省、文部科学省、経済産業省、日本ユネスコ国内委員会、北海道開発局、北海道、北海道教育庁、北海道大学、独立行政法人産業技術総合研究所、NPO法人防災情報機構、財団法人北海道市町村振興協会、北海道新聞社、室蘭民報社、日本経済新聞社ほか 【協賛】日本ジオパーク委員会、日本ジオパークネットワーク

※このシンポジウムは全国モーターボート競走施行者協議会からの補出金を受けて実施するものです。

【お問い合わせ】洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会
Tel.0142-66-4200 Fax.0142-66-2800 E-mail:ecogeo@town.sobetsu.lg.jp ホームページ：http://www.toya-usu-geopark.org/

日本ジオパーク全国大会ダイジェスト

1

2

3

4

5

6

7

8

9

会場周辺の様子

10

1 洞爺湖文化センター（メイン会場）入口
2 天井バナー
3 参加者到着 ― JR洞爺駅
4 電光掲示板（北海道開発局）
5 メイン会場 受付・ロビー風景
6 電光掲示板付き自動販売機（北海道開発局、北海道コカ・コーラボトリング）
7 セブンイレブン洞爺湖温泉店 ジオパーク特設コーナー
8 ジオパーク応援店ステッカー
9 北海道洞爺湖サミット記念館 ジオパーク特設コーナー
10–11 ジオパークご当地キャラクター
12 会場準備の様子
13 大会参加者への配布物

11

12

13

14

15

16

17

18

日本ジオパーク情報交換会 9/29(木)

19

20

21

22

14–18　日本ジオパーク認定証授与式
19　新規認定地域取り組み発表
20　日本ジオパーク事例発表
21　総合司会　AIR-G' FM 北海道
　　パーソナリティー　山口由美氏
22　会場の様子

フォーラム 9/30(金)

1 第Ⅰ部オープニングアトラクション：聖龍太鼓
2 主催者挨拶
3 フォトコンテスト入賞者表彰
4-5 児童生徒取り組み発表
6-7 シンポジウム［基調講演］
8 シンポジウム［パネルディスカッション］
9 大会宣言
10 第３回日本ジオパーク大会開催地挨拶
11 倉本聰氏の講演
12 第Ⅱ部オープニングアトラクション：「洞爺湖物語」

ジオツアー

9/28(水)、29(木)、10/1(土)

13　昭和新山(A3コース)
14　入江高砂貝塚館(A1コース)
15　カムイチャシ(A1コース)
16　アポイ岳(C4コース)
17　銀沼火口(B1コース)
18　そうべつ情報館i(C2コース)
19-20　西山山麓火口散策路(A2・C3コース)

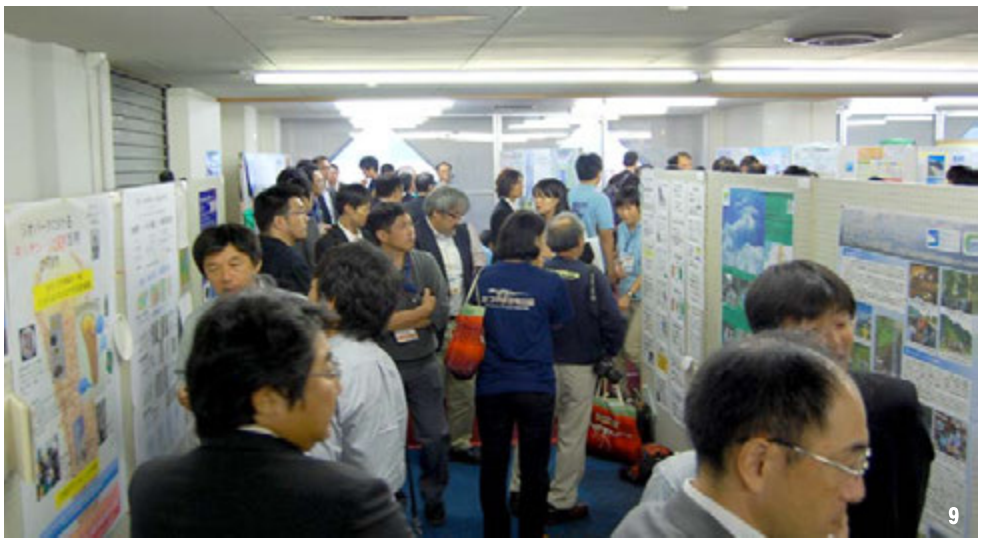
分科会 9/30(金)

1–5 分科会

JGN臨時総会 9/28(木)

6 JGN 臨時総会
7–9 ポスターセッション

ポスターセッション 9/28(木)〜10/1(土)



10

11

12

JGN懇親会 9/28(木)

13

10 JGN 懇親会
11–12 各地域名産品の紹介
13 全体交流会

全体交流会 9/29(金)

14

15

16

17

18

19

14–17 ジオの恵み物産展・コーヒーブレイク
18 ジオパークまんじゅう
19 ジオ弁当

発刊によせて

平成 23 年 9 月 29 日から 10 月 1 日の 3 日間、第 2 回日本ジオパーク全国大会（洞爺湖有珠山大会）が伊達市、豊浦町、壮瞥町、洞爺湖町において開催され、盛会のうちに幕を閉じました。

東日本大震災や新燃岳の噴火など、「生きている星－地球」をまざまざと感じさせる事象が続いたこの年に、20 世紀に 4 回の噴火を体験した当地域が開催地であったことは、ジオパークの意義を考えた時に、実にふさわしいものだったと振り返ることができるでしょう。

大会期間中、全国各地域や地元からのべ 2,000 人の参加を得て、「ジオツーリズムを通じた観光地づくり～変動する大地との共生～」をテーマに、シンポジウム、「観光・防災・教育・ガイド」をテーマとした各分科会、ポスターセッションなどの様々な場面で、ジオパーク推進の意義と未来ビジョンについて活発な意見交換がなされました。

また、火山、噴火遺構、縄文・アイヌの史跡、遺跡などの多彩なジオサイトを、専門家や洞爺湖有珠火山マイスターが案内する当地ならではのジオツアーも展開したところです。

大会を通じて、持続可能な地域社会の形成や、防災意識、環境配慮意識を高めることなど四つの柱を推進することを謳った「洞爺湖有珠山ジオパーク宣言」が満場一致で採択され、今後へ向けた新たな一歩を踏み出したことは、実りの多いものであったものと感じています。

この「第 2 回日本ジオパーク全国大会（洞爺湖有珠山大会）報告書」は、本大会の記録と同時に、次の大会へのバトンとなることを願い、取りまとめました。

今後の日本のジオパークの取組が飛躍するよう、洞爺湖有珠山ジオパークとしても大会の成功を胸に、世界ジオパーク認定地域として役割を果たしていきたいと考えます。

結びとなりますが、本大会は、多くの機関や団体からの多大なる御支援、御協力と、地元の児童・生徒、ボランティアの皆様に支えていただき成功することができました。また、大会各委員や顧問の皆様には、一方ならぬ御尽力をいただいたところです。

大会運営に関係いただいた全ての方に、心から感謝を申し上げます。

平成 23 年 12 月

第 2 回日本ジオパーク洞爺湖有珠山大会組織委員会

組織委員長　洞爺湖町長　真屋　敏春

2 全国大会ダイジェスト

8 発刊によせて

9 もくじ

10 洞爺湖有珠山大会宣言

11 日本ジオパーク情報交換会
11 開会宣言／主催者挨拶
12 日本ジオパーク認定証授与式
13 新規認定地域取り組み発表
16 日本ジオパーク事例発表

19 フォーラム
19 第Ⅰ部 開会式典
21 フォトコンテスト入賞者表彰
23 児童生徒取り組み発表
25 シンポジウム
29 大会成果報告
32 第Ⅱ部 オープニングアトラクション／特別講演／鼎談

33 ジオツアー
33 ジオツアーA 9月28日(水)
36 ジオツアーB 9月29日(木)
37 ジオツアーC 10月1日(土)

41 分科会
42 第1分科会「ジオパークと観光」
44 第2分科会「ジオパークと防災」
46 第3分科会「ジオパークと教育」
48 第4分科会「ガイドの取り組み」

50 ポスターセッション
51 コアタイム
52 発表者一覧

56 展　示
56 フォトコンテスト入賞作品
56 児童生徒作品

57 関連行事等
57 JGN理事会／臨時総会／登録事前相談会
58 ジオ・フェスティバル
59 物販等

60 参考資料
60 大会プログラム
62 大会参加状況
64 大会までのあゆみ
67 オール北海道（3地域）の取り組み
68 フォトコンテスト 巡回作品展／地域の取り組み
69 大会参加者への配布物
70 大会機構図
71 大会組織委員会名簿
74 関係機関等一覧
75 広報宣伝
76 全国大会・ジオパーク関連 新聞記事一覧
83 全国大会・ジオパーク関連 テレビ/ラジオ番組・掲載誌一覧
84 新聞記事（抜粋）

洞爺湖有珠山大会宣言

9月30日（金）の大会フォーラム第Ⅰ部の最後に、洞爺湖有珠山地域の４市町長から宣言案が読み上げられ、拍手をもって今大会の大会宣言として承認されました。

本年３月に発生した東日本大震災により犠牲になられた方々に深く哀悼の意を表し、今なお辛苦の日々を過ごされている被災地の皆様にお見舞いを申し上げます。

この未曾有の大災害と本年１月から継続している霧島ジオパークの新燃岳噴火は、我々人類が“生きている星－地球”の一部であること、また、地震・噴火・台風等の自然現象が地球の必然的な営みであることを強く再認識させるものでした。

このような中、9月29日から10月１日まで、20世紀４回の噴火を体験した洞爺湖有珠山地域で、全国のジオパーク関係者と多くの市民参加を得て、第２回日本ジオパーク全国大会が開催され、「ジオツーリズムを通じた観光地づくり―変動する大地との共生―」をテーマに、これまでの日本ジオパークの歩みを振り返り、ジオパーク推進の意義と未来ビジョンについて語り合いました。

全国のジオパークが誇る風光明媚な景観、地質・地象全てに、歴史的背景があり、後世に伝えるべき貴重な「地球の活動の遺産」であることを改めて意識するとともに、ジオパークが地球を理解し生きる力を育む有効な教育ツールであること、まちづくり、人づくりに生かすべき大切な資源であることを共通理解しました。

国際連合教育科学文化機関（ユネスコ）が支援する世界ジオパークネットワークが掲げる「地球と人との関わり」「大地との共生」「持続可能な地域社会の形成」等の基本理念は、まさしくこれからの日本が進むべき方向性を示すキーワードと確信します。

私たちは、このたび正式に内閣府認証の特定非営利活動法人として発足した日本ジオパークの一員として、百年、千年後の地球に思いを馳せ、ジオパークが日本の社会に果たす重要な役割を認識し、次の事項を推進することを、本日ここに宣言します。

一　ジオツーリズムを通じて、産業振興と雇用の拡大による持続可能な地域社会を形成します

一　教育活動を通じて、防災意識と環境配慮意識を高めます

一　自然と共生してきた先人の教訓を伝承し、国内外の安全文化の構築に貢献します

一　国内外のジオパークと連携し、ジオパークの取り組みの発展と拡大を目指します

2011（平成23）年9月30日

第２回日本ジオパーク全国大会　洞爺湖有珠山大会

大会組織委員長　洞爺湖町長　真屋敏春

開会宣言

開会に先立ち、本年３月 11 日に発生した東日本大震災で犠牲になられた方々のご冥福をお祈りし、参加者全員で１分間の黙祷を行いました。

第２回日本ジオパーク全国大会洞爺湖有珠山大会は、洞爺湖文化センター大ホールで９月 29 日 12 時 30 分に開会しました。

（以降の発言録は、録音の逐語録を基に事務局で抜粋および編集を加えています。）

主催者挨拶

真屋 敏春　大会組織委員会委員長（洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会会長／洞爺湖町長）

本大会は、洞爺湖有珠山、アポイ岳、白滝の道内３ジオパークが連携し、オール北海道として皆様を心から歓迎いたします。このたび世界ジオパークに認定された室戸ジオパーク、日本ジオパークに認定された各地域の関係者の皆様、おめでとうございます。本年前半は、新燃岳の噴火や東日本大震災など、地球の活動の猛威をまざまざと見せつけられる出来事が重なりました。その一方で地球の営みは、風光明媚な景観や、暮らしを豊かにする恵みをもたらしてくれます。ご参加の皆様が、大会テーマである「ジオツーリズムを通じた観光地づくり～変動する大地」との共生に沿って、観光、防災、教育をキーワードに、ジオパークの活用や社会に果たす役割について考えを深め、大会終了後にはそれぞれのお立場で実践活動に結びつけていただけることを期待しております。

米田 徹　大会組織委員会名誉副委員長（日本ジオパークネットワーク理事長／糸魚川市長）

本年は自然災害が多発しております。特に日本はプレート活動が活発な国であることからも、ジオパークに「防災」の視点の取り入れることが極めて重要です。ジオパークを通して多くの人々が災害を知り、防災を学ぶことによって、安全な生活を送れるようになることが、ジオパークに求められているのではないかと思います。今回のジオパーク全国大会に先立って開催した（ＪＧＮの）理事会、総会では、ジオパークを推進していくことは今の時代にまさに適った活動の一つであり、日本全国にそれをしっかりと打ち出していくことに賛同をいただきました。つきましては、これからも皆様方の多大なるお力を賜ることをお願い申し上げ、そして、この大会が実りある大会となることをご祈念申し上げます。

日本ジオパーク認定証授与式

平成 22 年度に 3 地域、平成 23 年度に 6 地域が日本ジオパーク委員会の審査を経て「日本ジオパーク」に新たに仲間入りし、本大会時点での日本ジオパークは 20 地域になりました。本大会では、日本ジオパーク登録認定証の授与式、日本ジオパーク委員会の尾池和夫委員長からのメッセージ、そして新規認定地域を代表して霧島ジオパーク推進協議会会長の前田終止霧島市長から代表挨拶が行われました。

平成 22 年 9 月 14 日 新規認定地域

白滝ジオパーク（北海道）／伊豆大島ジオパーク（東京都）／霧島ジオパーク（鹿児島県・宮崎県）

平成 23 年 9 月 5 日 新規認定地域

男鹿半島・大潟ジオパーク（秋田県）／磐梯山ジオパーク（福島県）／茨城県北ジオパーク（茨城県）／下仁田ジオパーク（群馬県）／秩父ジオパーク（埼玉県）／白山手取川ジオパーク（石川県）

委員長メッセージ ： 尾池 和夫　日本ジオパーク委員会委員長

本日は 9 地域に認定証を差し上げることができ、本当に嬉しく思います。これで日本ジオパークは 20 ヵ所となり、ＪＧＮ立ち上げの頃から思い起こすと、これほど大きなネットワークになったことに感無量です。私ども委員会もジオパークの質を高め、維持することに尽力してまいりましたが、皆さんのご努力の賜が結晶になったと感激しているところです。これからいよいよ再審査の時期を迎えるという年数が経過してきました。皆様方のさらなるご努力を期待し、私どもも精一杯の支援をさせていただきたいと思っております。

新規認定地域代表挨拶 ： 前田 終止 霧島ジオパーク推進協議会会長（鹿児島県霧島市長）

新規認定 9 地域のジオパークは、それぞれの持つ個性、地質や地形、自然をテーマに、ジオパーク構想を推進してまいりました。地球活動の織りなす様々なジオサイトがありますので、ぜひ一度その地域に足を運んで満喫していただければと思います。ジオパークの推進は、認定がゴールではなく、認定後さらにジオパークとしての質を高める努力を続けていくことが大切です。私たちはその覚悟を持ち、検証して事業を進め、ジオパークの目指す目的に邁進していく所存ですので、今後ともご指導をどうぞよろしくお願い申し上げます。

日本ジオパーク新規認定地域 取り組み発表

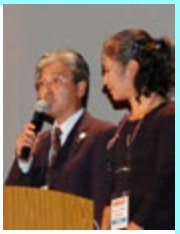
白滝ジオパーク

【発表者】佐々木 修一（遠軽町長）／堀嶋 英俊（遠軽町総務部ジオパーク推進課係長）

当地域は国内最大級の黒曜石の産地であり、黒曜石を活用した旧石器時代の文化を主としたジオパーク活動を進めています。2009 年からガイドの案内によりジオポイントを巡る本格的なジオツアーを実施しており、2010 年からはガイド育成プログラムを開始。本年 7～9 月までの 3 ヵ月間、ほぼ毎週ジオツアーを実施しました。近年は学校と連携して、小学生たちをジオパーク大使に任命したり、石育をテーマとした年間カリキュラムを計画。高校でも来年からジオパークを含む「ふるさと学」という選択科目を設定し、教育との連携がとられてきています。

伊豆大島ジオパーク

【発表者】野村 昌宏（伊豆大島ジオパーク推進委員会事務局）／西谷 香奈（伊豆大島ジオパーク推進委員会委員）



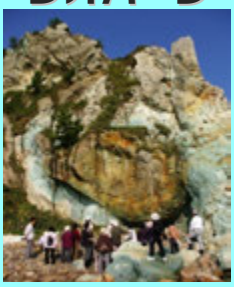
以前からあった様々な団体活動が土台となり、ガイド常駐の写真展示と三原山周辺のジオサイトを歩くバーチャルツアーを実施。有志が交代でガイドを担当し、自らの言葉で伊豆大島の魅力を語るこの取り組みは現在も毎週末に継続しています。プロガイド育成を目指し、修学旅行の誘致や旅行社主催の団体ツアー、個人のツアーなどの有料ツアーを展開しています。ここでは山の魅力、生命のたくましさ、美しさ、自然災害を生き抜く知恵、これを首都東京ジオパークとして、また、活火山の島という特徴を生かしながら、後世に伝えていくことを目指しています。

霧島ジオパーク

【発表者】坂之上 浩幸（霧島市商工観光部霧島ジオパーク推進課課長）

霧島ジオパークは、①景観、②火山の博物館、③植生、④神話と歴史、という４つの魅力を掲げ、「自然の多様性とそれを育む火山活動」をテーマとしています。これらの魅力を伝えていく仕組みを整えて、「民間団体の参画」「ガイド養成講座」「解説板の整備」「教育に生かす」「周知活動」「防災活動」といった課題を解決するため、創意工夫をしながら事業を実施しています。行政だけではなく、住民が一緒になって、防災や地域振興に生かせるようジオパークの活動の推進をお互いやっていきましょうという宣言も５月のフォーラムで行いました。

男鹿半島・大潟ジオパーク



【発表者】高橋 浩人（男鹿半島･大潟ジオパーク推進協議会副会長･大潟村長）

男鹿半島・大潟ジオパークは、「大地の物語」、「大地と人の物語」、「大地の恵みの物語」、これらと出会う場所となることを目指して取り組んでいます。現在、男鹿市観光案内所をジオビジターセンターとして、大潟村では干拓博物館を拠点施設として情報発信を行っていますが、外国語対応についてが今後の課題です。ガイド活動は、観光協会やボランティアガイドが活動し、ガイド用パンフレット、フィールドおよび座学のガイド養成講座など互いに研修の場を設けて取り組んいます。今後は、①魅力発見、②魅力発信、③魅力効果に取り組みながら、世界認定を目指していきたいと思っています。

磐梯山ジオパーク

【発表者】小椋 敏一（磐梯山ジオパーク協議会会長･北塩原村長）／佐藤 公（磐梯山ジオパーク協議会運営部会部会員）

2007 年の地球惑星科学連合・ジオパークセッションに参加し、2008 年の企画展「会津磐梯山」を契機に磐梯山をジオパークにという意見が高まり、民間サイドで磐梯山ジオパーク推進実行委員会を設立。2009 年には磐梯山フィールドガイドブックの作成、配布、出前授業などとともに、磐梯山の地質、歴史、動植物を学ぶガイド養成講座を行いました。2010 年 3 月に自治体首長の協力を得て磐梯山ジオパーク協議会を発足し活動を開始しました。先進地域の視察や住民への研修などを活発に行い、最終的には世界ジオパークを目指します。被災して大変な福島県ですが、これからも積極的に活動していきますのでどうぞよろしくお願いいたします。

茨城県北ジオパーク

【発表者】草間 吉夫（茨城県北ジオパーク推進協議会副会長･茨城県高萩市長）／天野 一男（運営委員会委員長）

私たちは日本ジオパーク認定を機に、大地の贈り物、地質の遺産を全国に広げるため頑張っていきたいと思っています。そして、私たちももっと自然に謙虚になり、様々な人々と交流を図っていくよう、これからも努力したいと思います。茨城県北ジオパークは、大都市東京の近くで、地球５億年の歴史に自ら触れることができます。①知的観光ツアーの展開、②ユニークなジオを世界に紹介、③茨城空港を活用した国内・東アジアのジオパークとの連携、④東北地方太平洋沖地震の被害からの復興、を今後の目標とし、誇りの持てるふるさと（ザ・いばらき）づくりを目指していきたいと考えています。

下仁田ジオパーク

【発表者】大河原 順次郎（下仁田町ジオパーク推進室登録推進係係長）

当地域は下仁田ネギと下仁田コンニャクで有名ですが、昔から地質研究も盛んに行われており、現在は「ネギとコンニャク・ジオパーク」というキャッチフレーズでまちおこしを行っています。まもなくホームページが公開予定で、現在ジオサイト周遊マップ５種類も制作中。総合案内看板ができたところです。防災協定を結んだ練馬区から修学旅行で約 400 名が来町したり、地元の子どもたちにジオサイトでの自然観察会や総合学習でジオパークを取り入れた授業を行っています。今後は名山登山とジオパーク、各種研究団体と連携した教育活動、同時にＪＧＮ認定された秩父ジオパークと茨城県北ジオパークとの地域間連携によるジオパークの推進を図りたいと考えています。

秩父ジオパーク

【発表者】久喜 邦康（秩父まるごとジオパーク推進協議会会長）／宮城 敏（秩父まるごとジオパーク推進協議会事務局）

秩父まるごとジオパーク推進協議会は１市４町で構成し、山に囲まれた盆地地形により独自の文化が育まれてきた地域で、それを保全し全国に発信していきたいと思っています。秩父は日本地質学の発祥の地としても有名で、子どもたちが地質や化石について学習できる場です。私たちは「大地の守人を育む」ということをジオパーク活動のテーマにしています。秩父の独自の風土や大地の魅力を社会や学校、家庭で子どもたちに伝える活動を盛んに行っています。日本百観音霊場や伝統産業である秩父銘仙などを活かして、お客様のニーズに的確に応えていくことを目指しています。

白山手取川ジオパーク

【発表者】日比野 剛（白山手取川ジオパーク推進協議会事務局）

石川県白山市は１市２町５村の合併によって誕生しました。合併によって山から海まで、自然、歴史、文化、産業の多様さがあるため、これらをうまくつないで、一体感や連帯感、新しい魅力、人づくりを行っていくことにジオパークがちょうどマッチしました。「山ー川ー海そして雪、いのちを育む水の旅」が当ジオパークのテーマです。各地の伏流水を飲み比べたり、石をさわって見比べてみたり、展示会や化石発掘調査の体験を行うなどのジオパーク活動を展開し、普及に努めています。また、地域の学校の授業に取り入れてもらうために教員の研修なども積極的に行っています。今まさにジオパークの輪が回り始めたばかりなので、これからどんどん進めていきたいと考えています。

日本ジオパーク事例発表

日本ジオパーク委員会　情報提供

【情報提供者】渡辺 真人（独立行政法人産業技術総合研究所 地質標本館アウトリーチ推進グループ長）

ここでは、世界と日本のジオパークを取り巻く状況について私見をお話しさせていただきます。現在、ユネスコ執行理事会でジオパークの正式プログラム化に向けた検討が始められています。しかし、ジオパークがユネスコの正式プログラムになっても、おそらく世界遺産やラムサール条約のような条約に基づくものにはならず、その価値が国際的や国内的に急上昇することはないと思われます。つまり、私たちは、これまで通り各ジオパークを面白い場所にして、ジオパーク全体の価値を上げていくしかないわけです。一方で、（正式プログラムになれば、）審査基準は厳しくなります。既に審査や再審査は年々厳さを増していますので、世界を目指す地域はぜひ GGN や APGN などの会議でそれを感じてほしいと思います。審査基準で重要なことは、ユネスコが「持続可能な開発のための教育」を重要な考え方としているので、ジオパークも、環境面など持続可能であるということをしっかり押さえておく必要があります。ユネスコは国際教育科学文化機関なので、様々な自然遺産の保全やそれを教育や科学の普及に活用することが審査ではより厳しくなると考えています。

糸魚川ジオパーク　事例発表

【発表者】岩﨑 良之（糸魚川市ジオパーク推進室長）

糸魚川を代表するヒスイの原産地は小滝川ヒスイ峡で、人口 200 人ほどの地域です。地域の団結が良く、「目指せ！ 世界ジオパーク」の看板を自分たちで作ったり、小滝地区ジオサイト協議会を立ち上げるなど、昔から様々な取り組みを積極的に進めてきていて、観光入込数も増加しています。

現在、糸魚川では解説版やパンフレットなどの英語表示を作成し、拠点施設に多言語対応したタッチ式の音声ペンなどを導入。今後は外でも使えるようスマートフォン等の活用を考えています。また、不便であった公共交通機関には、現地観光バスの周知やタクシーでの半額商品を作って対応しています。来訪者に対しては全市民がおもてなしを意識することが重要と考え、学芸員等による出前講座や地域全体のレベルを上げるためジオパーク検定をしています。事業者にもジオパークマスター講座を行って受講者に認定証を渡し、店頭にパンフレットを置いてもらっています。体験学習としては、石の標本や防災学習など様々な学習支援を行うとともに、体験学習から交流人口の拡大をめざし、学校教員向けツアーを行ったり、国立青少年自然の家と連携した取り組みも積極的に行っています。

島原半島ジオパーク　事例発表

【発表者】松井彩花、喜多真望（長崎県立島原商業高等学校）

平成 20 年 10 月、島原半島地域は日本ジオパークに認定、世界ジオパークネットワーク加盟の申請が決まりました。新聞や広報誌でたびたびジオパークという言葉が掲載されていたので、これは地域の活性化につながるものだと考え、私たちは調査・研究を始めました。まずはじめに、世界ジオパーク認定地域の幾つかに電子メールや手紙で質問し、観光振興にとても有益であることを知りました。近年の自然観光志向の高まりからも、世界ジオパークに認定されれば観光振興に好影響をもたらすと考えました。

平成 21 年 8 月 22 日、島原半島ジオパークは国内初の世界認定を受けました。私たちは、ジオパークに関する『食』の商品開発を行い、「噴火ちゃんぽん」、「ふげんプリン」、地元の野菜を PR するため「島原の野菜パンシリーズ」、「きゃべつフィーユ」、「サンサントマト」などを商品化しました。また、５つの高校の生徒・保護者と街頭調査でジオパークに対する意識調査を行い、平成 21 年度に合計 919 名、平成 22 年度に 1,246 名の回答を得ました。認知度は徐々に高まっていますが、自ら積極的に関わろうという意識は低い結果になりました。

私たちは今後の課題として、「島原半島ジオパークを売りにした観光誘致」を挙げたいと思います。当ジオパークは地元の人たちが地元の財産をよく理解し、観光客にも気軽に案内できるジオツーリズムを目指しています。これからを担う私たちも「学生ネットワーク」で地元の食材を使った商品開発やマーケティング活動、観光ガイド、イベント、案内板などを積極的に行っていくことを目指します。

山陰海岸ジオパーク　事例発表

【発表者】今井　裕子（NPO たじま海の学校・香美町ジオパーク推進員）

山陰海岸ジオパークは東西約 110km、南北最大 30km で、３県３市３町で構成され、とにかく広いことが特徴です。つまり、山陰海岸ジオパークは広いエリアだからこそ、ご当地ものが多く、ジオツーリズムに展開しやすいバラエティに富んでいます。

一方で、全体を通した強固な連携が必要です。イベントや頒布物の多くが予算の関係で自治体単位になり、連携がうまくとれないことがあります。そこで山陰海岸ジオパークの域内連携のため、110km ウォークやジオパークフォーラム、ジオパークフェスティバル、ガイド交流会、津波や地震の仕組みについてのチラシ作りなどを行い、県立人と自然の博物館が拠点施設６ヵ所と連携して巡回展示も行っています。また、バス事業の補助によって、広いエリアを巡る来訪者の増加にもつながっています。世界ジオパークは、認定されると来訪者が押し寄せるかと言えば、そうではありません。ジオパーク自体の認知度が低いからです。認知度を上げるためには、ジオツーリズムだけでなく、地元住民に働きかけで地域活性化が進むことによって認知度が上がるのだと

思います。しかも行政からのトップダウンではなく、住民からのボトムアップがないとジオパークは受け入れられません。地元住民に対する活動として、香美町ではジオパークマスター認定制度を行い、観光客だけではなく住民の方にも、ジオサイトへの行き方を簡単に道案内することができる案内人を養成しています。域内で実際にインタープリターをされているガイドさんも講師で参加してもらって域内連携を図っているのも特徴です。地元住民にジオパークを理解してもらうために、私は「人口減少や地場産業の衰退の歯どめのために、ジオパークが切り札になる」ということを伝えています。香美町のジオパーク DVD の制作では、専門家が台本を書くのではなく、現場にカメラを持っていって、地域の人が自分の言葉でジオパークや地域のことを話してくれるよう工夫をしていて、地域再発見 DVD として、とても人気になっています。

今回の発表のキーワードは「連携」です。例えばジオパークに興味がある人と興味がない人、行政と民間、市町村合併における旧市町村間、隣同士の府県などに、温度差や見えない壁を感じます。ジオパークはそれを取り除いて連携できるものだと思います。これを実現できれば、地域活性化のための大きな大きな切り札として住民や観光客に受け入れられ、ジオパークがますます楽しくなると思います。さらに、日本各地のジオパークとも連携を深めていけるよう、活動を行っています。

アポイ岳ジオパーク　事例発表

【発表者】原田　卓見（様似町商工観光課ジオパーク推進係長）

アポイ岳ジオパークは、北海道日高山脈の南西に位置している様似町１町で運営するジオパークです。当ジオパークの魅力は何といっても「かんらん岩」です。アポイ岳とピンネシリからなるアポイ山体はすべて幌満かんらん岩でできていて、地下 30km 深度の上部マントルから持ち上げられた地帯です。アポイ岳は標高 810m であまり高い山ではありませんが、このかんらん岩の影響で約 80 種の高山植物（うち約 30 種が固有種）が生育し、国の特別天然記念物にも指定されています。

様似町はもともと観光地ではないため、これまで観光ガイドのような人材はほとんどいませんでした。そこでアポイ岳ジオパークや様似町を紹介するガイドを育成するために現在行っているのが「ふるさとジオ塾」と題した養成講座で、アポイ岳ジオパークの普及啓発やさまざまな資源の再発見を目的にスタートしました。その成果としては、連続講座を進める中でジオパーク全体を案内できるガイドが育ってきたこと、地域の魅力を再発見できたこと、そしてツアーの計画でどのようなツアー形態やガイドが馴染むのかが見えてきたことです。

一方で課題もたくさんあります。どうしてもジオを語ると多少理屈っぽくなってしまって難しい印象を与え、敬遠されてしまいます。また一般的にジオに興味を持っている人が圧倒的に少ないという現実もあります。ですから、興味ある人が少ない中で説明の難しいジオを、どう伝えていくかということが喫緊の課題です。いずれにしても、アポイ岳ジオパークのガイドの質はああり高くないと自覚しいます。スキルの向上とともに、上記のような課題を一つ一つ解決していきたいと思っています。

第Ⅰ部 開会式典

オープニングアトラクション

開会に先立ち地元の和太鼓チーム・聖龍太鼓によるオープニングアトラクションが行われました。大地に染みわたる重低音の和太鼓の響きにのって、大会２日目のフォーラム第Ⅰ部が開会しました。

主催者挨拶 ： 真屋 敏春 大会組織委員会委員長（洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会会長／洞爺湖町長）

今大会では、日本ジオパークネットワークの 30 地域をはじめ関係機関や団体、地域の皆様など、延べ 2,000 人の参加が見込まれています。ジオパークの推進地域の増加は、ジオパークが地域づくりに有効であるという期待が高まっているものだと感じます。

今年は地球活動の猛威を知らされる出来事が重なりました。地球の営みは時に甚大な被害を引き起こす一方、地球活動の遺産そのものである地質や地形は、多くの恵みをもたらしてくれます。

本大会では、ジオパークの活用や社会に果たす役割などについて考えを深め、各地域の取り組みが一層磨き上げられていくことを期待します。本大会が皆様にとって実り多きものとなり、今後の日本ジオパークネットワークのますますの発展に寄与することを願います。

来賓挨拶 ： 高橋 はるみ　大会組織委員会名誉委員長（北海道知事）

2008 年の北海道洞爺湖サミットの後、高まる環境意識を追い風に環境と調和する持続可能な観光地を目指して様々な取り組みを北海道は続けてきました。その中心的役割を果たしてきたこの地域は一昨年８月に、日本で初めて世界ジオパークに認められました。関係者の皆様方のこれまでの御努力に対し、心から敬意を表します。

本大会では、ジオパークを推進する全国各地の皆様方が一堂に会し、観光、教育、防災など幅広い分野で有意義な議論が行われ、ジオパークが果たす役割を考えることは、まことに意味深く、ジオパークを通じて地域のさらなる活性化が図られることを大いに期待いたします。

来賓挨拶 ： 尾池 和夫　大会組織委員会名誉副委員長（日本ジオパーク委員会委員長）

日本ジオパークネットワーク全国大会、おめでとうございます。日本ジオパーク委員会を代表して、お祝いを申し上げます。

2008 年 7 月 7 日からこの地で行われたサミットの少し前、5 月 23 日に日本ジオパーク委員会を発足し、まだ 3 年。30 カ所プラス幾つかというご参加を呼んで開催するまでに大きくなりました。本当にすばらしいと思います。

私は、ジオパークのテーマは「見る」、「食べる」、「学ぶ」だと言っておりますが、まずは「見る」。一昨日は 2000 年の噴火活動の跡を歩き、火山マイスターのご説明の中で、2000 年噴火の跡を残すことができたのは、この地域の住民力なのだという話を伺い、これが一番大事だと思いました。そして「食べる」。本日午前中に壮瞥の果物農家を訪れて、真っ赤に熟れたリンゴやブドウを食べさせていただきました。そこで伺った話の中で、先代の農園主が噴火をした後、火山岩のおかげで肥料をやる手間が省けたと言っていたそうです。火山とともに生きていくという姿がそこにここにあらわれていて、食べることの見方を少し変えてこの大地というものを「学ぶ」。これがジオパークのテーマだと私は思っております。

21 世紀の問題を考えるとき、資源の問題、環境の問題、エネルギーの問題、制限の問題を抱えていますが、それらをすべて支えているのが大地なのです。大地で大いに楽しみながら、経済活動を盛り上げて、子どもたちにもいっぱい大地を触り、叩いてもらって、大地の仕組みをそこから学び取ってもらう、そういうジオパークであってほしいと思います。

来賓紹介

《ご来賓の皆様》

高橋 はるみ 様	北海道知事／大会組織委員会名誉委員長
尾池 和夫 様	日本ジオパーク委員会委員長／大会組織委員会名誉副委員長
神戸 典臣 様	北海道議会議員
滝口 信喜 様	北海道議会議員
中山 智康 様	北海道議会議員
青山 剛 様	北海道室蘭市長
小笠原 春一 様	北海道登別市長
目時 廣行 様	北海道白老町副町長

フォトコンテスト入賞者表彰

今大会に先駆けて行われた第１回洞爺湖有珠山ジオパークフォトコンテストでは、道内外から 140 点に上るご応募をいただきました。伊達写真連盟会長の板垣氏を審査委員長に厳正なる審査を行った結果、入賞された方々の表彰し、最後に審査委員長から講評をいただきました。

最優秀賞

『パワースポット』
成田　正利　様（北海道伊達市）

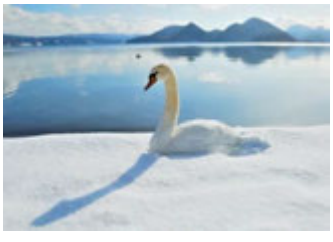
優秀賞

『根は岩をも砕く』
田中　康夫　様（北海道恵庭市）

優秀賞

『悠久の時』
青山　弘志　様（北海道函館市）

北海道知事賞



『湖畔にたたづむ』
川上　康徳　様（北海道新ひだか町）

日本ジオパークネットワーク理事長賞

『浸食谷』
石橋　文則　様（北海道伊達市）

入　選

①『夏景』

②『開花前』

③『湖の風』

④『有珠山火口』

⑤『秋の訪れ』

⑥『倒木』

⑦『真冬の有珠山噴火口』

⑧『静謐』

⑨『夏の日』

⑩『月照』

⑪『あじさい』

大鹿 静彦 様（北海道北見市）①
斎藤 雅也 様（北海道伊達市）②
鯉沼 桂子 様（栃木県栃木市）③
成田 正利 様（北海道伊達市）④
太田 秀樹 様（北海道伊達市）⑤
三上 賢策 様（北海道室蘭市）⑥⑦
※2 点入選
松原 秀松 様（北海道洞爺湖町）⑧
石川 豊次郎 様（北海道壮瞥町）⑨
進藤 直樹 様（北海道札幌市）⑩
上口 建作 様（北海道江別市）⑪

フォトコンテスト講評 ： 板垣 春美　洞爺湖有珠山フォトコンテスト審査委員長
伊達写真連盟会長

受賞されました皆様、おめでとうございます。また、すばらしい作品を御応募いただいたすべての皆様に深く御礼申し上げます。

当フォトコンテストは、洞爺湖有珠山ジオパークを様々な視点で見詰め直し、魅力を探していただくことを目的に初めて行われました。地域の自然、産業、文化、観光など、様々な視点の作品が 140 点寄せられました。その中で人物作品は 4 点であり、少なく感じました。今後は人々の暮らしに焦点を当てた作品が増えることを期待します。このジオパークフォトコンテストは、来年以降も継続して実施したいと考えています。最後に、皆様の写真に向けてのさらなる研さんと飛躍を期待しまして、講評とさせていただきます。

フォトコンテスト審査委員一覧（※敬称略）

役 職	所　属	職	氏　名
委員長	伊達市写真連盟	会　長	板垣 春美
副委員長	第 2 回日本ジオパーク洞爺湖有珠山大会実行委員会	科学学術部会副部会長	加賀谷 仁左衛門
委員	第 2 回日本ジオパーク洞爺湖有珠山大会実行委員会	実行委員長	三松 三朗
	第 2 回日本ジオパーク洞爺湖有珠山大会組織委員会	顧　問	岡田 弘
	写真集団洞爺	会　長	村上 隆昭
	（有）メディアライズ	写真家	田中 正文
	北海道	知　事	高橋 はるみ
	日本ジオパークネットワーク	理事長	米田 徹

児童生徒取り組み発表

洞爺湖有珠山地域の学校では、ジオパーク認定以前から大地の財産を使った多くのフィールド学習が行われてきました。世界ジオパークとなった今も「ジオ」を学び、「ジオ」を体験し、「ジオ」と共に生きる授業が行われています。今回はその活動の一部を児童生徒の皆さんから発表していただきました。

洞爺湖町立洞爺湖温泉小学校

自然の恵み（総合的な学習の時間『洞爺湖タイム』での学習）

【発表者】緒方 康太くん、佐々木 蓮さん、北島 稚葉さん、齊藤 優香さん、竹澤 遥さん、田村 好さん、津谷 みづきさん、千場 麻央さん（5年生）

私たち洞爺湖温泉小学校５年生は、昨年度一年間、洞爺湖にある火山など様々なことを勉強しました。その中から自然の恵みについて紹介したいと思います。

洞爺湖の南にある四十三山には温泉の源泉があります。今から約 100 年前の噴火でできました。噴火したときのマグマの熱で温泉が誕生し、直後には龍湖館という温泉旅館ができました。また、皆さんが知っている西山山麓火口と金比羅山麓火口は、今から 11 年前の 2000 年の噴火によってできました。これらの火口にはヨシやイタドリなどの背の低い植物しかないですが、100 年経つと四十三山のように緑がいっぱいになり、長い時間をかけて森になるのです。西山山麓や金比羅山麓火口、そして四十三山のように、それぞれの植物の環境が違うということは、生き物の種類も違い、多くの生き物が住んでいるということなのです。

豊浦町立豊浦中学校

私たちがジオサイトで学んだこと ～カムイチャシでの体験学習を通して～

豊浦小学校『ジオパークエリアでの自然体験学習』／ 大岸小学校『地域での植林活動を通して学んだこと』／ 礼文華小学校『カムイチャシへの遠足から感じたこと』／ 大和小学校『“百年の森”での絵本作りを通して』／ 豊浦中学校『ふるさと豊浦体験学習で学んだこと』

【発表者】星野 海斗くん、本井 朱莉さん、本所 莉奈さん（2年生）

私たちの住む北海道の美しい景色の中には、アイヌの人たちと関わりの深い物語やアイヌ語の自然の意味を残したものがたくさんあります。海と山の自然に恵まれた私たちのまち豊浦町でも、たくさんの名勝や旧跡がありますが、特に有名なのが国指定名勝「ピリカノカ カムイチャシ」です。豊浦町の５つの学校では、豊かな自然に恵まれたジオサイトの中で、さまざまな体験学習を行っています。

豊浦小学校は洞爺湖有珠山ジオパークエリアで遠足や宿泊学習、自然体験活動などを行っています。大岸小学校では校区の豊かな自然環境を生かして様々な体験学習を行っています。礼文華小学校では地域の人々と一緒にカムイチャシの歴史や自然の探索を行いました。大和小学校では公園に隣接する学校林「百年の森」を舞台に、写真や絵本づくりを行いました。そして私たち豊浦中学校はカムイチャシで体験学習を行いました。私たちはこれからもこの豊かな自然の中で暮らしていきます。それを理解し、保全し、次の世代の人たちに引き継いでいきたいです。

壮瞥町立
壮瞥中学校

まるごと壮瞥（総合的な学習の時間での学習）

【発表者】大友 拓海さん、藤盛 萌夏さん（３年生）

壮瞥中学校は、洞爺湖の西に位置する生徒数 45 名の中学校で、洞爺湖有珠山ジオパークの真ん中に位置しています。学校からは有珠山と昭和新山を望むことができます。僕たちは、すばらしい景色に恵まれた土地で、総合的な学習の時間を「まるごと壮瞥」と題し、１年生は「まるごとりんご」と題して果樹栽培を中心とした学習、２年生は「まるごと観光」と題して観光に関する学習、３年生は「まるごとジオパーク」と題した学習をしています。農業も観光もすべては大地の営みを受けて成立しています。そこで、私たちは火山の学習をします。様々な火口を見学したり、ロープウェー展望台で火山マイスターの皆さんから解説を受け、有珠山がどのように噴火し、どのような災害を起こしてきたのかを学びます。今後は、噴火実験やハザードマップの意味などについても学習し、３年間の学習のまとめとして、壮瞥町が開催している「子ども議会」で私たちの町をよくするための提案を行う予定です。私たちは、「まるごと壮瞥」で学んだことをもとに、壮瞥町の未来をしっかりと考え、歩んでいきたいと思います。

北海道立
伊達緑丘
高等学校

縄文学習を通して

【発表者】榎本 崚汰さん、生山 一貴さん、干場 翼さん、工藤 純樹さん（２年生）

伊達緑丘高校では、総合的な学習の時間に縄文学習を取り入れていて、昨年は北黄金２遺跡の発掘作業に参加しました。胆振から渡島半島、さらに津軽海峡を隔てた北東北地方では多くの遺跡が見つかっており、この地域の歴史を学ぶ上で貴重な教材に恵まれています。伊達緑丘高校の校舎も南稀府５遺跡の上に建てられています。本校では、平成 15 年から毎年、総合的な学習の時間の中で伊達市噴火湾文化研究所や洞爺湖町の学芸員の方々の指導を受けて発掘調査などのフィールドワークを行っています。

この学習に取り組む前は、私たちは北黄金貝塚をあまり貴重な場所だとは思っていませんでした。小学校の遠足などで何度か訪れていたので、あまりにも身近で当たり前の近所の公園程度のものとしか感じていませんでした。しかし今、改めて縄文文化について学び、遺物を掘り当てる幸運に恵まれると、数千年前の遺跡なんだという実感が強く湧いてきました。

今回の学習にかかわるまで、ジオパークの名前も内容も耳にしたことはありませんでしたが、北黄金貝塚などの縄文遺跡がジオパークに登録されているという事実の重要な意味を理解することができました。北黄金貝塚は、世界的に考古学的に貴重な財産です。そのような貴重な財産を私たちの教育の場として利用させていただいていることに感謝しています。

シンポジウム

シンポジウムでは、ジオパークが地域や日本、世界に果たす役割について議論されました。はじめに洞爺湖有珠山ジオパークの学識顧問である２名の有識者からの講演、続いて日本ジオパーク委員会事務局の渡辺真人氏をコーディネータに、講演者を含む６名のパネリストでパネルディスカッションが行われました。

（この項は編集者の言葉を交え、講演内容を抜粋してお伝えします）

基調講演１：災害列島とジオパーク　～地球をよく知り、地球と仲良く～

岡田 弘 氏
北海道大学名誉教授／
洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会学識顧問

「この会場に立つと、17 年前にこの観光都市で行われた初めての防災講演会での地元町長の言葉が思い出されます。『わしは最近次の噴火の夢を見た。自分がこの世を去った後、この地域の中心を担っている人たちが墓石の周りで話していた。1977 年噴火の後、復興だけで次の噴火に備えなかったために、しっぺ返しを受けてしまった…』　その後、首長たちが中心となって次期噴火を見据えた防災マップづくりを行い、自然をよく知り自然と付き合っていこうという動きが始まったのです」。

1977 年の有珠山噴火以降、この地で火山専門家として減災に尽力してきた「有珠山の主治医」、岡田先生の冒頭の言葉は、それまで観光地として災害を封印しようとしてきたこの地が、自然と共生して地域の発展を目指すきっかけとなった出来事を紹介したものです。2000 年噴火は小規模でしたが、人の生活圏に近いところでした。もし噴火前に対策がなされていなければ重大な被害が生じたことでしょう。17 年前のこの出来事が住民を守ることになったわけです。

「皆さんが宿泊されているホテルは、大体このレッドゾーンの中にあると思います」。有珠山の防災マップを映写しながら、活動的な火山と人がこれほど密接に暮らす地域は世界でも稀であること、20 世紀の有珠山噴火に相対した研究者や地元の人々の適切な行動の歴史などについて紹介されました。20 世紀以降、火山観測と警戒体制に取り組んできたことで火山災害の犠牲者は大きく減りました。レッドゾーンに宿泊できるのも、多くの経験と努力、そして火山減災の先進地・洞爺湖有珠山だからこそだというわけです。

講演の最後は、2004 年スマトラ沖大津波のとき、学校や祖母から学んだ知識をもとに適切な行動をとって多くの人の命を救った２人の子どもの話でした。

「知っていること、普段からしていることは、その時にもできるのです。災害を軽減できる可能性が高いのが火山災害と津波災害です。自然災害の減災のためにジオパークが果たす役割はとても大きいと思います。特に修学旅行でこの地を訪れる、未来を担うたくさんの子どもたち。大地に学び、大地とともに生きることを提案し実践するジオパークのプログラムを充実していくことが、この地や国の減災、さらに地域の持続的な発展にとても有益です」と結びました。

基調講演２：知的観光資源としてのジオパーク ～新たな観光の創造をめざして～

大島 直行 氏
伊達市噴火湾文化研究所所長／洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会学識顧問

「日本には恐らく１万人以上の考古学者がいますが、観光分析考古学者は私ぐらいだと思います。ジオパークを新たな観光資源として考えるときには、こういう人間がたくさん出てきてほしい。火山学者や地質学者や人類学者が観光を論じることも必要だと思います」。 そう語り始めた大島先生は、伊達市の顧問として地域づくりに携わった自らの経験や課題解決の事例をもとに、知的観光資源であるジオパークの可能性を提案されました。

伊達市では、住民ボランティアが主体的に地元の文化を発信していったことや、地域の文化財をただのまちの歴史としてではなく、なぜ6000年も前に人が住みついたのか、どのようなことを考えながら暮らしていたのかといった背景のストーリーを積極的に伝えてきたことが奏功し、体験学習に訪れる小学生が１万人を超える成果に恵まれました。また、商工会や観光協会、個人事業主などの商業者に文化財を活用した事業の実施を提案し、幾つもの学会を誘致して、地域の文化や遺産に関する情報発信に成功しました。

ほかにも、有効な観光資源を持たないまちに人を呼ぶため、面白いまちだと感じてもらう努力もされています。伊達市在住の芸術家の協力を得て子どもたちの芸術活動を支援する多くの事業に取り組み、数十年後に世界に通用するような芸術家を育てようとしているそうです。**「こうしてまちを変えて見せることによって人が寄りやすくなるという発想から、文化も観光資源として活かせるのではないかと考えた。“知的観光資源”という言葉を考案した所以です」。**

少子高齢化や週休２日制の定着、旅行者の環境に対する意識の高まりから、観光形態は量から質に変わってきていることを指摘し、**「近年のこうした変化は“見る観光から学ぶ観光へのシフト”と言われますが、さらに、“学ぶ観光から考える観光”の時代が来ると思います。たとえば最低限の施設しかない北黄金貝塚に１万人の子どもたちが訪れるのは、そこでものを考えることができるからです。いわゆる知的観光資源は、こうした考える観光に合致するもので、その最たるものがジオパークです。日本の新しい観光の形を提案することができるジオパークを、この新たな枠組みの中でいかに発信していくか。行政はもちろん、地域、エージェントなどにも意識を改革してもらうことが大切です。ジオパークというものを観光スポットの要としてもっと積極的に活用してほしいと思います」**と述べ、**「ジオパークの観光に対する可能性は、とても大きい」**と結びました。

パネルディスカッション：
ジオツーリズムを通じた観光地づくり　～変動する大地との共生～

パネリストの活動紹介

三浦氏　私は有珠山の噴火を２度経験しました。2000年噴火ではホテル経営者として、社員や家族を抱えて逃げ出すことが許されませんでした。避難解除後には風評被害・人情被害で来客が激減しました。そんな中、ホテルの部屋から客が噴煙を眺めているのを見て、屋上で客に噴煙を見せて解説することを始めました。その取り組みが地域住民のボランティア活動へと広がり、観光地としての再生の道へとつながりました。現在も地域で多くのジオツアーを継続的に行えるまでに至っています。

パネリスト
三浦　和則　氏
とうや湖温泉旅館組合組合長／株式会社洞爺湖温泉観光ホテル代表取締役社長

パネリスト
中貝　宗治　氏
山陰海岸ジオパーク推進協議会会長／兵庫県豊岡市長

中貝氏　ジオパークは知的で、災害とも結び付いて「緊張感」が付きまといます。それをいかに柔らかく楽しむことができるか。地形地質、気候風土、それに適応した生物多様性、人間の生活様式・文化などを過去の地球活動と結び付けて理解し、学び楽しむことがジオツーリズムだと思います。そして、売るべきものを売るのではなく売れるものを売らなければなりません。客の顔を見ながら売れるツアーを作っていきたいと考えています。

坂元氏　阿蘇はジオパーク推進前から年間1,800万人が訪れる地でした。ジオパークに取り組む理由は、私たちが暮らす阿蘇地域が世界的に素晴らしいということを知ってもらうだけでなく、特に地域住民が日々の暮らしの中でそれを自覚して生活していくことが大切だと考えているからです。ジオパークは日々の暮らしや観光、教育などに密着しているということを自覚し、地域全体で取り組むものだと思います。

■柴田氏が、日頃ガイドの先生役として行っている室戸ジオパークのジオツアーを、スライドを用いてバーチャルで展開しました。

災害と観光

コーディネータ
渡辺　真人　氏
独立行政法人産業技術総合研究所　地質標本館アウトリーチ推進グループ長

渡辺氏　三浦さん、2000年噴火後に来訪者に噴火を見せようとしたとき、周囲の反応はどうでしたか、1977年は噴火を隠す風潮だったと聞いています。

三浦氏　初めのうちは「変わったことをするなぁ」という反応でした。それが地域に広がり、ようやく風評被害・人情被害を払しょくできました。中には「噴火を売り物にするな」「遺構など壊してしまえ、観光地なのだから奇麗なのが当然」という声もありました。

渡辺氏　坂元さん、阿蘇でも災害と観光という両面がありますが、地元の人たちは火山の近くに住んでいるという認識はあるのですか。

坂元氏　観光地は危険であってはいけませんが、一方で危険と隣り合わせの場所だからこその魅力もあります。安全にはかなり配慮していますが、地元の人々は火山の恵みを認識している一方で、危険が近くにあるという認識はあまり持っていません。

渡辺氏　岡田先生、洞爺湖有珠山地域だけでなく日本全体どこも安全な場所はないと思います。

岡田氏　世界的にみても洞爺湖温泉は間違いなくハイリスク。ただし、そこに住む人々はそれを理解し、来訪者の安全確保に努めていることが前提にあります。100年の尺度でみれば、関東大震災も経験しているようにリスクはどこにでもある。それをどれだけ理解してうまく付き合って暮らしていけるかが重要です。

人のつながり

中貝氏　山陰海岸は広域かつ多彩であるがゆえにアイデンティティの確保が難しい。しかし、ジオの取り組みによって仲間が増えてきました。共通の課題に共に取り組むことで一体感ができ始めています。また、ジオには人の姿があることが大切です。洞爺湖有珠山地域には魅力的な地質がたくさんありますが、そこに暮らす人々が大地と向き合い、一生懸命それを伝える努力をしていることに何よりも魅力を感じました。

柴田氏　ジオは何も話さないので、それをつなぐインタープリターがいかに魅力的であるか、そして地域の誰に話しかけてもジオを意識した話ができることを目指しています。昨年のジオパークマスター講座によって、連帯感とつながりができました。事務局を介さないネットワークが徐々にできつつあります。

人づくり

三浦氏　観光関係者が集客のために行うというよりも、地域づくりという観点で、住民全体でジオツーリズムを推進していくことが必要です。

中貝氏　「知る」ということはマイナスになることもありますが、自分の故郷を誇りに思う気持ちが醸成されます。ジオパークとは何か、どう人づくりするかを考えることが既に人を育てています。ジオの知識を背景にさまざまなアイディアを実現していくことによって、意図せずとも自分たちの地域を学び、誇りを持って人を育てるということが起き始めています。

パネリスト

坂元 英俊 氏

阿蘇ジオパーク推進協議会事務局長／財団法人阿蘇地域振興デザインセンター事務局長

坂元氏　人づくりというよりも人が育っていくのだと思います。商店街の人たちは、生活の中で普段何気なく使っている水がジオの恵みだと気づくことによって、水を調べ、見せ方を考え、商品を開発しました。ジオを案内する人も案内をする中でもっとジオを学ぶ必要性に気づき、次第にジオの要素を使って地域の魅力を話せるようになっていく。事務局側もこの地域のこのような人々がいることに気づき、ともにジオツーリズムを考えていくべきだと思います。

「知ること」「気づくこと」のきっかけ

渡辺氏　「知れば知るほど知りたくなる」「気づくとどんどん自分でやりだす」という言葉が出ましたが、知るきっかけ、気づくきっかけはどんなことでしょうか。

坂元氏　地域住民はそこにあるのが当たり前で魅力に気づかないことが多いですが、私たちのように客観的に魅力を感じている人との会話の中で気づくことができます。それを自分たちの言葉で伝えられるようになるとそれが自慢になり、そこに人が集まってきます。

柴田氏　ジオパークの市民説明会を行った後、参加者からたくさんの情報をもらいました。地域で普通に暮らしている人たちの中に入っていき、教えてくれた人の興味を共感していくことで、これまで会ったことのない人をどんどん発見していくことができています。

パネリスト

柴田 伊廣 氏

室戸ジオパーク推進協議会地質専門員

まとめ

岡田氏　地球が動くたび、その土地に暮らす後輩たちが恩恵を受ける土地ができます。地球の営みをそのように見られると、いろいろなものに活かすことができる。これがGGNがねらう研究・保全、教育、文化であり、ジオパークの根幹なのではないかと思います。

大島氏　ジオパークの資産を考えるときには、自然と人との関わりにストーリーを持たせて観光資源としていくことが大事だと感じます。

渡辺氏　「自然と人との関わりを見せていくこと」はジオパークの重要なキーワードですが、それをまだ十分に活かせていないと感じます。そして、それを人に伝えていくのもまた人です。ジオパークのキーワードは「人」だということです。

大会成果報告

分科会報告

9 月 30 日の午前中に行われた分科会の成果を各分科会コーディネータから報告していただきました。各分科会の詳細は「分科会」の章に記載しています。

第１分科会「ジオパークと観光」コーディネータ：杉本 伸一 氏（島原半島ジオパーク推進連絡協議会事務局次長）

第１分科会では８グループに分かれてグループディスカッションを行い、ジオパークを観光地として活用するために必要なこと、ジオサイトの保全と活用の工夫についてグループごとに話し合いました。発表の中から抜粋します。

まず、ジオパークの観光活用について、特に地元の人たちが地域のストーリーをつくり上げ、自分のこととして取り組むことが必要。ジオだけでは難しくなってしまうため、地域の文化との結びつきが重要で、いかにジオと他の資源を結びつけるかが問題。また、地元の人はなかなかそのよさがわからないことが多いので、よその者の視点で見ることが重要といった意見が出されました。

ガイドについては、ガイドの質がリピーターの獲得や客の満足度を左右する。ガイドは有償でなければ地域の振興につながらず、ガイド組織の持続にもつながらない。地元の人がガイドをすることで郷土を愛する心が生まれてくる、といった発表がありました。

保全と活用に関しては、地元の理解や企業などの登録が必要。全域が自然公園で保護されているところでは、電気自動車で山頂までの送迎を計画したのだけれども、国から「前例がない」という返答が返ってきたので、このような大会に国の機関も参加してもらい、ジオパーク全体の動きに国も関与していってもらえるようＪＧＮとして依頼してほしいという意見が出されました。

第２分科会「ジオパークと防災」コーディネータ：中川 和之 氏（日本ジオパーク委員会委員／時事通信社山形支局長）

第２分科会では事前に全国のジオパークにアンケートをしました。その中の質問で「ジオパークで来訪者に伝えるメッセージを教えてください」というのがありました。ここに３つの印象的な言葉を選んでいます。「ジオパークを楽しく学んで災害に備えよう」「過去から現在を知り、それを未来につなげていこう」「美しい自然は災害の語り部」。このアンケートを通じて見えてきた防災とジオパークのキーワードは「知る、伝える、備える」でした。

分科会では、首長さん３名、大学教授２名、ジオパークの専門員ら３名に事例報告をいただきました。事例報告の最後に米田理事長から、行政ではどうしても防災は防災関係の話、地域振興は観光だけとなりがちだが、それを一体となって事前に話し価値を深めておく、それを日本のジオパークとして育てていかなければいけないというお話を頂きました。

参加していただいた皆さんに決意を表明していただいた中に印象的なものがありました。「ほかの地域の方に話をすると観光案内で、地元の方に話をすると防災。それがジオパークだ」と。

第３分科会「ジオパークと教育」コーディネータ：
佐茂 厚美 氏（洞爺湖有珠火山マイスター／伊達市立稀府小学校教諭）

第３分科会では、事前に各地域にアンケートをとりました。その結果から、学校教育における講師役の人材の育成と、地域住民への社会教育活動の具体的な活動にテーマを絞りました。

まず、多くの地域の学校でジオ学習が行われているというのがわかりました。その講師役は８割方学校外の人材が担っていました。ジオ学習を長い期間かけて根づかせていくためには、地域の未来を担う人材を育てる学校の取り組みが不可欠であるというのが参加者の多くの意見です。教師自身が学び、教師自身が面白いと感じられることが必要だということでした。学校教育のツールとしては、副読本やパンフレットを教師自身が学校や自主的なグループで学んだり、直接授業に利用していることが報告されました。また、学校からフィールドに出て学ぶときには、移動のバス代を行政が保証している例がありました。学校が外部に講師を依頼しやすいようなシステムも必要で、総じて学校と地域の間にある壁をどう乗り越えてコラボレーションしていくのかという悩みや経験が多様に出たと思います。

地域住民への社会教育活動については、地域には年齢や性別や職業など多様な興味を持っている方がおり、自分たちの地域に誇りを持ちたい人が多いので、それに応えるものが必要であるという意見が出されました。そのような中で、キーパーソンをうまく探し出し、それを活用する。次代を担う子どもの教育は学校だけでなく地域でも行われていることなどがわかりました。総じて、旺盛な地域住民の学びへの意欲に応える取り組みについて、交流することができたと思います。

第４分科会「ガイドの取組」コーディネータ：
小川 裕司 氏（洞爺湖有珠山ジオパーク･ガイド委員会委員長／株式会社洞爺ガイドセンター代表取締役）

第４分科会ではガイドの取り組みについて話し合いました。日本ジオパークでガイドの取り組みについて(公式に)話し合うというのは、今回が初めての機会だったそうです。そこで、ガイドやガイドを育てようとしている人たちが一堂に会して、今考えていること、感じていることを話し合うことで、幾つか今後解決すべき課題などが具体的に出てきました。

１つ目の議題は、「どのように自分たちのジオパークを伝えていますか」ということです。ジオパークをガイドするときに「ジオ」という言葉にためらいを感じるというテーブルが 6/8 グループありました。実際にうまくいっているところは、「ジオ」という言葉にとらわれるよりも、実際に地域に触れた活動をすべきという考え方をもっているようです。そして、共通の話題になったのが、地元の人たちにいかに知って好きになってもらうか。これが一番大切だという意見が多く出されました。２つ目の議題は、事前アンケートで悩みの多かった「ガイドの人材問題をこれからどうするか」「ガイドの組織化」というテーマで話し合いました。長い目でジオパークの継続を考えたときには有料ガイドを育てていくべきであるということや、既存ガイドは横の関係を増やして研修会や講習会の中で情報を共有していくことが成長につながるという意見が出されました。ガイドの組織化については、一つの組織にするというよりも合同勉強会や交流会などで緩やかな結びつきを作り、協力していくべきだという結果になりました。

最後に、ジオパークのガイドの基準が曖昧だという指摘がありました。継続的に研鑽していくことはもちろんですが、目標とする基準をつくっていくべきであるという共通理解になりました。

大会宣言案紹介

本大会を総括し、最後に大会宣言(案)が洞爺湖有珠山ジオパークの４市町長から読み上げられ、会場の拍手をもって、正式な洞爺湖有珠山大会宣言として承認されました。

（大会宣言の内容は 10 頁に掲載しています）

第３回日本ジオパーク全国大会開催地挨拶

９月 28 日のＪＧＮ総会で、来年開催される第３回日本ジオパーク全国大会の開催地が室戸ジオパークに決定され、室戸ジオパークの皆様から次期開催地挨拶が行われました。

植田 壮一郎　室戸ジオパーク推進協議会副会長 ・ 室戸ジオパークの皆様

第３回全国大会を室戸ジオパークで行うことに決定いただき、大変光栄に受けとめています。昨年の糸魚川大会、今回の洞爺湖有珠山大会と、内容の濃い大会を勉強させていただき、来年はさらにレベルアップした良い大会にできるよう頑張らなければならないと決意新たにしているところです。室戸ジオパークは９月 18 日に世界ジオパークの仲間入りをしました。ＪＧＮやＪＧＣの皆様の手厚い御指導、御支援の賜物と、改めて厚く御礼を申し上げます。今後は、ＧＧＮ、ＪＧＮに恥じないよう、楽しくわかりやすく魅力あるジオパークにしていきたいと思います。来年は皆様方を快くお迎えできますよう、メンバー精いっぱい力を合わせて頑張りますので、どうか皆様お誘い合わせの上、室戸ジオパークへお越し下さいますようお願い申し上げます。結びになりますが、ＧＧＮ、ＪＧＮのますますの「隆起」を御祈念申し上げまして、室戸大会の御案内にかえさせていただきます。

閉会挨拶

真屋 敏春　大会組織委員会委員長(洞爺湖有珠山ジオパーク協議会会長／洞爺湖町長)

あっという間に時が過ぎていったという思いです。昨年の大会で開催地に決定されて今日まで、北海道らしさと幾度の噴火を経験したこの地ならではの大会となるよう準備してまいりました。先ほど無事に次期開催地にお渡しすることができ、大きな役目を果たせたかとほっとしています。参加された皆様が、大会で得られた経験を今後に結びつけていただければ、これに勝る喜びはありません。当ジオパークも大会宣言の通り、百年後、千年後の地球に思いを馳せ、日本、アジア、世界のネットワークの一員として貢献できるよう、これからも努力していきたいと思います。今大会に御参加いただきました皆様に心からお礼を申し上げ、また来年の大会が一層の盛会となりますことを御祈念し、閉会のご挨拶にさせていただきます。本当にありがとうございました。

第Ⅱ部 オープニングアトラクション

第二部のオープニングは「洞爺湖物語」と題して、写真家・田中正文さんが撮影した洞爺湖の映像と、ピアニスト・太田亜紀子さんのピアノ生演奏で始まりました。

特別講演　「あたり前の暮らしを求めて」倉本 聰

倉本 聰 氏　　作家

「私たちは今、２つの選択肢の岐路に立っている。１つは原発などのリスクを覚悟しながら、今の豊かで恵まれた暮らしを続けるか、もう１つは今の豊かな暮らしを捨ててもう少し質素な暮らしに戻る覚悟をするという道です」。この議題について、いつも来場者に挙手をしてもらっているそうです。その結果は、ほとんどの年配の方々が昔に戻る選択をし、ほとんどの若者が原発とともに豊かに生きる道を選択しています。日本は著しい経済成長を遂げ、いわゆる世界のスーパーカーになったが、そこにはブレーキとバックギアをつけ忘れてしまった。日の出とともに起き、日の入りとともに寝る生活が、かつて「あたり前の暮らし」であったが、父親が帰宅する時間は遅くなり、日が暮れてから長く生活するようになっている今、石油や電気に強く依存し、原発のように危険なものをつくり、天災に人災が加わってしまっていると話されました。便利と効率を追い求めてきた文明社会の中で、人は文明に麻痺してしまって今回のような人災につながったのです。しかし、今回の災害の中で結局、お互い頼りにしたのは人間の絆であったのです。

「46 億年の地球の営みというのは、見ようと思ってもなかなか見られないものです。でも、注意して見ていると垣間見ることができます。生きた地球史の博物館というものがジオパークというのではないでしょうか。地球のいわば地べたの過去の営みも、生きているものを目にできるこの土地を大事にしていただきたい。そして、それはある種の宝として守っていっていただきたいと思います」。

（講演内容の一部を編集者の言葉で抜粋してお伝えしています）

鼎談　伊藤 和明（日本ジオパーク委員会委員/特定非営利活動法人防災情報機構会長）
倉本 聰
三松 三朗（洞爺湖有珠山ジオパーク学識顧問/三松正夫記念館館長）

鼎談では、富良野のゴルフ場跡地に、伊藤氏監修のもと倉本氏が作られた「地球カレンダー」の話題になりました。約 460mのコースを約 46 億年の地球の歴史に見立てて作ったもので、１mが 1000 万年になりました。その中で人間が生きている時代は２㎝。さらに産業革命以降はわずか 0.02㎜ に過ぎない。そのわずかな間に人は地球になかったものをつくりだし、長年かけて地球が作ってきたものを消費してきた。わずか 0.02㎜ の間に生きている私たちは、460mもある地球の営みに思いを馳せて、地球が作ってきた環境をこれ以上傷つけることなく、子孫のために返していかなければならないということを３名がうなずき合って鼎談を締めくくりました。

（鼎談内容の一部を編集者の言葉で抜粋してお伝えしています）

ジオツアーA　9月28日(水)

A1コース　歴史・文化体験コース（噴火湾岸西エリア）

テーマ　縄文・アイヌ・和人の文化と自然との共生の歴史に触れ、大地の恵みを楽しむジオツアー

見学地　①入江高砂貝塚館・貝塚公園
②有珠善光寺（自然公園・宝物館）
③道の駅とようら（海産物等）
④カムイチャシ史跡公園　⑤文学碑公園

講　師　安藤　　忍 洞爺湖有珠火山マイスター
福田 茂夫　　〃　　他

参加者　32名

【有珠善光寺自然公園】起伏に富んだ独特の地形や異なる植生、ここに巨岩がある理由について、火山マイスターから解説を受けました。

【入江高砂貝塚】発掘物や復元した住居を見ながら、縄文の人々の暮らしについて解説を聞きました。

【有珠善光寺】宝物館の展示物や、有珠山のふもとにありながら噴火被害を免れた有珠善光寺の歴史を学びました。

【カムイチャシ史跡公園】135段の階段を上って岬の先まで歩き、噴火湾を一望しながら、この地に暮らしていたアイヌの文化について学びました。

A2コース　2000 年噴火遺構コース

テーマ　有珠山 2000 年噴火の火口群・噴火遺構をめぐり、変動する大地を体感するジオツアー

見学地　①西山山麓火口散策路
②フットパス金比羅山コース
③洞爺湖ビジターセンター・火山科学館

講　師　立野 広志 洞爺湖有珠火山マイスター
夏目 與市　〃　他

参加者　31 名

【西山山麓火口散策路】多くの災害遺構が保存され、自然の力強さと人の暮らしのもろさを体感しました。

【フットパス金比羅山コース】
2000 年の噴火によってできた「有くん火口」を目指して歩きます。

このコースには、2000 年の有珠山噴火で被災した幼稚園やアパートなどが噴火遺構公園として残されています。火山マイスターの解説を受けながら、大地のパワーの凄まじさと、災害の遺構を防災教育や観光に活用する取り組みを見て回りました。

A3コース　【特別プログラム】昭和新山登頂・周回コース

テーマ　特別天然記念物の昭和新山登頂、周回ジオツアー

見学地　①昭和新山園地
②昭和新山山頂、下山(周回コース)
③三松正夫記念館 等
※規制区域立入有

講　師　三松 三朗 三松正夫記念館館長他

参加者　34 名

【昭和新山山頂にて】

【レンガ色の溶岩ドーム】
山腹にある川原石について説明を受けました。

噴気を上げる亀岩。温度は徐々に下がってきていて、今回の測定では約 100 度でした。

昭和新山の地熱を
利用して食材を温める
「ジオ・クッキング」

洞爺湖と壮瞥市街地を背景に

【三松正夫記念館】三松館長の解説を聞きました。

ジオツアーB　9月29日(木)

B1コース　地元中学校 野外学習見学コース

テーマ　壮瞥中学校の野外学習に同行し、地質・防災教育を見学するジオツアー

見学地　①有珠山山頂北西部
②銀沼火口、I火口
③小有珠
※規制区域立入有

講　師　加賀谷 仁左衛門 洞爺湖有珠火山マイスター
阿部 秀彦　〃　他

参加者　31名

壮瞥中学校の総合的な学習で、2009年から取り組まれている授業「まるごとジオパーク」を視察しました。これは、「有珠山噴火」のしくみや「火山災害」について理解し、火山との共生について自分で考えることを目的とした授業です。
この日は許可を得て立入が規制されている有珠山の山頂部に入り、火口原を見学しました。

火山マイスターの解説を聞く中学生たち

立ち上る噴気。1977-78噴火の火口群を見学

小爆発を繰り返してできた銀沼火口。火砕サージと降り積もる火山灰によってできた縞模様が見えます。

ジオツアーC　10月1日(土)

C1コース　歴史・文化体験コース　（噴火湾岸東エリア）

テーマ　縄文・アイヌ・和人の文化と自然との共生の歴史に触れるジオツアー

見学地　①北黄金貝塚公園
②道の駅だて歴史の杜（体験プログラム）
③伊達市開拓記念館
④洞爺湖ビジターセンター・火山科学館

講　師　大島 直行 伊達市噴火湾文化研究所所長
安藤　　忍 洞爺湖有珠火山マイスター他

参加者　32名

【北黄金貝塚公園】最新の発掘現場での解説

【北黄金貝塚公園】
遺跡の発掘現場を見学しながら、有珠山の活動休止期に営まれていた、縄文人の自然と共生した豊かな生活や文化について学びました。

【だて歴史の杜・藍染体験学習】藍液を含んだハンカチを水で洗うと青く発色し、独特の深い青さが現れることに、参加者は驚きの表情を見せていました。

【伊達市開拓記念館】

C2コース　1944・1977 年噴火遺構コース

テーマ　有珠山1944・1977年噴火遺構を中心にめぐり、変動する大地を体感するジオツアー

見学地　①有珠火口原展望台
②火山村ジオパーク情報館
③くだもの村(果物狩り)
④そうべつ情報館 i
⑤1977 年火山遺構公園
⑥洞爺湖ビジターセンター・火山科学館

講　師　川南 恵美子　洞爺湖有珠火山マイスター
加賀谷 仁左衛門　〃
佐藤 忞　〃
木原 敏秋　〃　他

参加者　46 名

【有珠火口原展望台】

【有珠山ロープウェイ乗口】ロープウェイの待ち時間を利用して、火山マイスターの解説を聞きました。

【ジオパーク火山村情報館】有珠山の噴火史と火山防災の歴史、火山の恵みを学びました。

【くだもの村】大地の恵みを味わう参加者の皆様

【1977 年火山遺構公園】地殻変動により徐々に倒壊した病院施設.　火山の脅威を学びました。

C3コース　2000 年噴火遺構コース

テーマ　有珠山 2000 年噴火の火口群・噴火遺構をめぐり、変動する大地を体感するジオツアー

見学地　①西山山麓火口散策路
②フットパス金比羅山コース
③洞爺湖ビジターセンター・火山科学館

講　師　馬場 俊治 洞爺湖有珠火山マイスター
夏目 與市　〃
立野 広志　〃
佐々木 伸　〃
石畑 隆史　〃
阿部 秀彦　〃
池田 武史　〃　他

参加者　91 名

【西山山麓火口散策路】
2000 年噴火で被災した旧とうやこ幼稚園

あいにくの悪天候でしたが、個性あふれる 7 名の火山マイスターによる案内を、参加者はそれぞれ興味深く聞いてくださいました。コースはＡ２コースと同ルートで、2000 年噴火の影響を色濃く残すフットパス（散策路）を歩きました。

C4コース　アポイ岳ジオパークコース

テーマ　マグマのふるさと・かんらん岩と蝦夷地開拓の歴史に触れるジオツアー

日　程　10月1日(土)～3日(月)

講　師　水野 洋一（様似自然・歴史情報センター主宰）
田中 正人（学芸員）
佐々木 泰、原田 卓見、車田 利夫（推進協事務局）

参加者　8名（A班3名、B班3名、C班2名）

行　程

	A 班	B 班	C 班
1日（土）	08:30 洞爺湖温泉出発 12:30 様似着 昼食 13:15 かんらん岩広場、エンルム岬、観音山、日高耶馬渓、幌満峡 17:00 宿泊先着	17:30 宿泊先着	
2日（日）	09:00 アポイ岳登山 14:00 アポイ岳ビジターセンター、アポイ山荘(入浴) 16:00 花蘂水産(海産物見学) 17:00 宿泊先着 18:00 懇親会	09:00 かんらん岩広場、エンルム岬、観音山、郷土館、アポイ岳ビジターセンター、日高耶馬渓、幌満峡 17:00 宿泊先着 18:00 懇親会	13:00 かんらん岩広場、エンルム岬、観音山、日高耶馬渓、幌満峡 17:00 宿泊先着 18:00 懇親会
3日（月）	08:00 様似発 08:40 襟裳岬 12:30新千歳空港(解散)		07:30 アポイ岳登山 14:00 アポイ岳ビジターセンター 14:30 解散

参加者のご要望により3班に分かれての案内となりました。いずれもエンルム岬でアポイ岳ジオパークの地質概要を説明した後、主要なジオサイトを巡りました。二日目があいにくの大雨となったため、多少の予定変更もありましたが、アポイ岳登山も無事終えることができました。

かんらん岩広場でアポイのかんらん岩をご披露

観音山からの眺め

石の重さ比べに興味津々

アポイ岳9合目付近から見る様似海岸のパノラマ

9月30日(金)の午前中には、ジオパークの基盤となる４つのテーマを話し合う分科会が行われました。各分科会ではそれぞれ、洞爺湖有珠山ジオパークから１名と他地域のジオパークから１名、計２名の方がコーディネータを担当し、事前アンケートや議題などの事前準備と当日の進行をしていただきました。

第１分科会「ジオパークと観光」

第２分科会「ジオパークと防災」

第３分科会「ジオパークと教育」

第４分科会「ガイドの取り組み」

第１分科会「ジオパークと観光」

会　場：洞爺サンパレス ２階原生林
参加者：72名

コーディネータ

川南 恵美子

洞爺湖有珠火山
マイスター
(株)かわなみ観光
取締役

杉本 伸一

島原半島ジオパーク
推進連絡協議会
事務局次長

実施概要　８グループに分かれたワークショップ形式で、２つの話題を中心に議論を行いました。

1. コーディネータ挨拶・趣旨説明
2. アンケート結果報告（杉本コーディネーター）
   - 恐竜渓谷ふくい勝山ジオパークより解説

3-1. 観光に関する事例紹介
   - 霧島ジオパーク（宮崎県小林市総務部総合政策課 主任主事　戸高 明廣さん）
   - 洞爺湖有珠山ジオパーク（洞爺湖有珠火山マイスター　川南 恵美子さん）

3-2. 保全に関する事例紹介
   - 糸魚川ジオパーク（糸魚川ジオパーク市民の会 会長　久保 雄さん）
   - 島原半島ジオパーク（島原半島ジオパーク推進連絡協議会事務局次長　杉本 伸一さん）

4. グループディスカッション
   - テーマ①　観光として活用するために必要なこと
   - テーマ②　ジオサイトの保全に対する工夫

5. グループ討議結果発表
6. 総括（杉本・川南コーディネータ）

■アンケート結果報告

観光活用に最も必要なこととして、全ジオパークがガイド等の人材育成をあげている。

■観光に関する事例紹介

【霧島ジオパーク】：平成 21 年度にジオガイド養成講座を開催し、現在 65 名が登録している。ジオガイドが同行するツアーは、参加者に山の成り立ちや地層等について興味を喚起し、好評である。ガイドの高齢化による若手の育成と、複数のガイド団体を取りまとめる窓口の設置が課題である。

【洞爺湖有珠山ジオパーク】：今後は洞爺湖の資源を活かした見せ方や物語を考えて伝えていきたい。ジオパークを浸透させるためにジオグッズを作成してホテルやお土産屋に売り込み、まずは地元の人達からジオパークに関心を持つようにと思っている。外国語看板の設置や、立入規制区域などへのツ

アーについて行政と検討していきたい。

■保全に関する事例紹介

【糸魚川ジオパーク】：行政などでは手が回らないようなジオサイトの草刈を行い、その後勉強会を行い維持に努めている。非常に貴重な資源のある場所の保護のための体制を整え、その場所へのツアーはガイド付きで、期間や人数を制限して行っている。

【島原半島ジオパーク】：ジオサイトクリーン作戦として「みんなでジオキーパー」や、市民みんながジオガイドという活動を展開しており、地元の方達に集まってもらって、専門の方達にジオの資産の大切を説明してきたことで、自分達のまわりにある地質資源が大切なものだという意識が芽生えてきている。

■グループディスカッション結果

≪テーマ①　ジオパークを観光として活用するために必要なこと≫

・他の人を受け入れる為にジオパークガイドが必要。

・地域住民が地域のストーリーを作り上げ、自らのこととして取り組んでいくことで理解が進むのではないか。しかし、地元の人こそ自分たちが暮らすジオパークの良さに気付きづらい。よそ者の視点で地域の良さを見れるようになるとよい。また、地元の人がガイドをすることによって、郷土愛が生まれてくるのではないか。

・地域の文化との結びつきが重要。ジオだけでは見るだけで終わることが多くツアーの集客が難しい。どのようにジオと他の資源（農業体験等）を結びつけるかを考えていく必要がある。

・ジオパークを案内するガイドの質がリピーターや客の満足度を左右する。ガイドは有償でなければ地域の振興につながらず、ガイド組織も持続されない。

・市町村合併によって意識の差やまとまり感がないという問題が生じているが、その意味ではジオパークは行政区界を跨いで一体感を得られる枠組みとして連携の期待が持てるものになるはずである。

≪テーマ②　ジオサイトの保全と活用について≫

・ジオサイトを保全活用するためには、地元の理解や企業などの協力などが必要。

・全域が自然公園で保護されている所で電気自動車の利用を計画したが、国からは「前例が無い」との回答であった。このジオパークの取組を発展させ、様々な面で国などの機関の支援を得られるように努力していく必要がある。

・このような大会に国の関係機関も是非参加してほしい。JGN として是非お願いしてほしい。

■総　括：杉本コーディネータより総括があった。

他地域の取り組みの事例の報告や、各グループでの意見交換で参考になったことを自分の地域に持ち帰り、本日の検討を活かして今後もジオパークの様々な活動を皆で盛り上げていきたい。

第2分科会「ジオパークと防災」

会　場：洞爺観光ホテル 2 階梅の間
参加者：58 名

コーディネータ

宇井 忠英
洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会学識顧問・北海道大学名誉教授

中川 和之
日本ジオパーク委員会委員
時事通信社山形支局長

柴田 伊廣
室戸ジオパーク推進課専門員
地質専門員

実施概要　８つの地域からの事例報告後、参加者から意見をいただきました。

1. コーディネータ挨拶
2. アンケート結果報告
3. 各地域事例紹介
4. 今後に向けて
5. 全体総括・講評

■コーディネータ挨拶

今年は霧島で噴火が起こり、3.11 では茨木県北が被災地に、ジオパークを目指していた岩手三陸も大きな痛手を受けた。その中で、当初案になかった「防災」が分科会テーマになった。変動帯にあるジオパークの活動目的として、防災は切っても切れないものである。本日の分科会では、これらのジオパークから事例報告をいただき、ジオパークと防災について考えるきっかけとしたい。

■アンケート結果報告

ジオパークが防災に果たす役割を示すキャッチフレーズを回答から抜粋

「ジオパーク、楽しく学んで災害に備えよう」（八峰白神）

「過去から現在を知り、それを未来に伝えていこう」（箱根）

「美しい自然は災害の語り部」（伊豆半島）

→ アンケートを通じて見えてきた防災とジオパークのキーワード「知る、伝える、備える」

■各地域事例紹介

≪山陰海岸ジオパーク：中貝 豊岡市長≫　平成 16 年 23 号台風と北但馬地震の被災と復興とジオパークについて話があり、「絶えず災害に向き合っている日本のジオパークは、災害に向き合う目が一つの特徴。なぜ、そんなにしてここに住むか。それが人間。そこに産まれてしまって、その地への深い愛

着が産まれ、この町が大好きで、災害に襲われた時に自らの力で復興させる。その深い思いと強い責任感が生まれる。それがジオパークの活動だ」と。

≪伊豆大島ジオパーク：川島 大島町長≫ 防災はジオパークの主要な構成要素である。ガイドが普及啓発の役割を担い、いざ噴火が起きたら防災の担い手にもなる。それが私たちの経験から来る結論である。子どももじいちゃん、ばあちゃんもジオパークや防災のことを語っている観光地にする。

≪伊豆半島：小山 静岡大教授≫ ジオパークは災害を読み解く人材を育てる場所。少し知識があればすべての地形や風景の意味が読み解ける。災害の履歴、リスク、ベネフィットもバランス良く読み取れる。地域の防災意識の根本的な底上げになり、風化しない。

≪室戸ジオパーク：柴田 地質専門員≫ ガイドは分かりやすく災害と恵みについて説明している。学校教育の中に入れ、ジオパークを学んだ人を地域の防災リーダーにしていきたい。そのネットワークができるのがジオパークである。南海地震が差し迫る室戸として、ジオパークをやっていて良かったと将来言えるようにしたい。

≪霧島ジオパーク：井村 鹿児島大准教授≫ 旅館の女将が「噴火は当たり前」と新聞に応えた。あんまり身構えずに、ジオパークの活動をちゃんとしていたら大丈夫であると考えている。

≪島原半島ジオパーク：寺井主事≫ 島原ジオパークでは、取り組みのひとつに各学校で崖を見つけて教材化するという学習を行っている。子どもたちに伝えれば家族に伝わり職場に伝わると考えている。

≪洞爺湖有珠山ジオパーク：山中 前会長≫ ＧＧＮでは公式パンフ、申請ガイドラインに、防災に対しての言及は特にない。変動帯に位置するジオパークでは、この教育の要素に防災教育を含めていくのが非常に重要で、ジオパークの考えに合致するとして、洞爺湖有珠山ジオパークのＧＧＮ申請で、そのことを明記した。

≪いわて三陸構想：大石課長≫ 建物に乗り上げた船など、現物の災害遺構は雄弁な語り部になる。「未来の人々と連携しよう。未来に住む人が犠牲を確実に減らせる、悲しい思い出を見つめる勇気を持とう」と、被災遺構の保存の調査を進めている。今後、地域住民の賛同を得る課題がある。

会場から、有珠では砂防ダムが景観を壊さないよう住民とのワークショップで砂防の常識を覆し、砂防地内に遺構を残すことができたとの事例や、奥尻では「住民感情に配慮する」として津波の遺構がまったく残っていない事例も紹介された。

最後に米田会長から「行政では防災は防災関係の論議になり、地域振興は観光で相容れなかったが、これらが一体となれるのがジオパークである。被災後には将来に伝える論議ができなくなるが、事前だと一体となって話ができる。価値を深めれば深めるほど、災害遺産として残せて伝えていける。これを日本のジオパークとして打ち出していかねばならない。」

■総　括：　～私たちの決意～

・他地域の方に話をすると観光案内で、地域の方に話をすると防災教育。
・観光案内と防災教育は同一。

第3分科会「ジオパークと教育」

会　場：北海ホテル 2 階
参加者：62 名

コーディネータ

佐茂 厚美

洞爺湖有珠火山マイスター
伊達市立稀府小学校
教員

池辺 伸一郎

阿蘇火山博物館館長

実施概要　８グループに分かれたワークショップ形式で、２つの話題を中心に議論を行いました。

1. コーディネータ挨拶・趣旨説明
2. アンケート結果報告
3. 学校教育事例報告（洞爺湖有珠山ジオパーク・洞爺湖温泉小学校）
4. 社会教育事例報告（阿蘇ジオパーク）

5-1. グループディスカッション
　①学校での講師役の人材の育成の方法
　②地域住民への社会教育活動の具体的な内容（ツアー・座学など）

5-2. グループディスカッション結果発表

6-1. 質疑応答

6-2. 総括

アンケート調査の結果（現状）から、以下の２点の話題を切り口としてディスカッションを行った。

①【学校教育において】学校での講師役の人材の育成の方法

［現状］学校教育におけるジオ学習の実施主体は、８割方が推進協議会や地域の人などの外部講師である。

［話題］学校内部の講師役の育成方法、および外部講師との連携の取り方や外部講師の活用方法について議論する。

②【社会教育において】地域住民への社会教育活動の具体的な内容（ツアー・座学など）

［現状］取り組みは不定期であり、実施主体は行政や推進協議会が多い。

［話題］社会教育活動が定期的に実施され、かつ魅力ある取り組みとなるために、より望ましいと思われる内容や仕組みについて議論する。

グループディスカッションの結果、以下の課題とそれらの対応案が挙げられた。

◎学校教育では、「ジオ学習」が継続的に行われることが望ましい。
◎子どもたちと身近に接し、子どもたちへの伝え方が最も優れているのは教員である
⇒ 学校教育の主体はあくまでも教員である。地域はそれを支援する。

◎ジオパークにおいて活動したいという意欲の高い住民は多い。
⇒ 多様なニーズに応え、幅広く学べるジオ講座を実施する。

◎学校教育と社会教育は重なり合っている。
⇒ 地域として学校教育と社会教育が互恵的に協働する仕組みをつくる。

≪教員への働きかけや支援≫
・教員にいかに興味を持ってもらい理解してもらうかを考える。
・研究会など教員が集まる場にジオパーク担当者が参加してジオパークの啓発を行う。
・新任研修で地域のジオ研修を実施するなど、教員が学べる機会をつくる。
・副読本やマニュアルなど学習補助ツールを用意する。
・教員 OB や大学、高校の先生が授業の支援を行う。

≪学校への働きかけや支援≫
・野外学習用バス代や外部講師謝金を行政が負担するなど、経費の補助を行う。
・学校から外部講師を依頼、活用しやすい仕組みをつくる。
・既に実施している地域教育・郷土学習を「ジオ学習」として扱う。
・遠足や部活動、環境・防災教育、保全活動など通常の授業以外での学習機会をつくる。
・子どもたちにガイドを経験させたり、高校生が小・中学生に教えたり、子どもたち自身に発信させる場をつくる。

≪社会教育のあり方≫
・意欲の高い人、多彩な関心、年齢や職業など多種多様な人々のニーズに応えるジオ講座を実施する（地質に偏らず多様なテーマでジオパークを総合的に扱う、対象者に合わせて様々な時間帯・場所で実施する等）
・公民館など、住民により身近な場所をジオパークの発信局とする。

■総　括：池辺コーディネータより総括があった。
・学校教育と社会教育は地域で重なり合っている。学校と地域社会が壁を越えてどう連携していくかを考えていく必要がある。
・キーパーソンは教員である。子どもたちへの伝え方等を含め、次世代を担う子どもたちの育成には教員の役割は重要である。
・学校がジオパークを取り入れて教育を行うことの効果は大きいはず。社会側からも学校へアプローチをしていき、意思の疎通を図りながらジオパークを通して互恵的に取り組みを推進していきたい。

第4分科会「ガイドの取り組み」

会　場：洞爺湖畔亭 2 階会議室
参加者：56 名

コーディネータ

小川 裕司

洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会ガイド委員会委員長
(株)洞爺ガイドセンター代表取締役

西谷 香奈

伊豆大島ジオパーク推進委員会

実施概要　８グループに分かれたワークショップ形式で、２つの話題を中心に議論を行いました。

1. コーディネータ挨拶
2. アンケート結果報告
3-1. 事例報告(1)　「洞爺湖有珠山ジオパークにおけるガイド活動と課題提起」
3-2. グループディスカッション(1)　「ジオパークをどう伝えるか」
4-1. 事例報告(2)　「伊豆大島ジオパークにおけるガイド活動と課題提起」
4-2. グループディスカッション(2)
    ①ガイドの質の向上とモチベーション維持について
    ②ガイドの人材確保について(高齢化、後継者不足に対して)
    ③有料ガイドの料金設定について
    ④複数のガイド組織がある場合の組織統一について
5. 全体総括・講評

■事例報告(1)

「洞爺湖有珠山ジオパークにおけるガイド活動と課題提起」コーディネータ　小川

・ジオパークの普及啓発活動はかなり行っているが、認知度は低いのが現状である。
・課題として、個人ツアーの不足、旅行会社の反応の悪さ、地元住民の浸透不足があげられる。
・教育関係者にはまずまずの反応が得られている。特に理科教育の担当者には評判がよい。

■グループディスカッション(1)　「ジオパークガイドとして自分のジオパークをどう伝えるか」

どう伝えるかというテーマよりも、まずはジオパーク各地の現状報告が中心となった。そこで各地の問題点も多少具体例が出てきた。

・「ジオという言葉から来る難しいイメージ」が障壁となっていると感じた（6/8 グループ）
・ジオパークの認知度が課題である。

≪ジオパークを伝える取り組み≫

・まずは地元の人達に地元のよさを知ってもらう、ファンになってもらう。
・ジオを押し付けず、対話をもとに相手の興味や背景に合わせた案内から始める。
・「地域全体がまるごと大地の博物館」と捉え、食べることも飲むことも含めて楽しめるようにする。
・広域のエリアをつなげ、歴史をつなげる、などの「ストーリーの必要性」を感じた。

■事例報告(1)

「伊豆大島ジオパークにおけるガイド活動と課題提起」コーディネータ　西谷

・ジオパークを盛り上げるには、有償ボランティアガイドとプロガイドが協力し合うことが必要。
・ジオパークは面白く絶対に人を呼べる。触れる見るツアーによりリピーターを増やしたい。ツアー料金を下げるのではなく、料金に見合ったツアーができるように努力することが必要。

■グループディスカッション(2)　ガイド活動に関する課題

◎ガイドの質向上とモチベーション維持／ガイドの人材確保人材

・ボランティアガイドは継続性に限界がある。ガイドの質を上げるにはプロガイドが必要。
・未来の人材を育てると同時に地元ファンも作るべき　例）高校生の総合学習でジオを伝え、将来のガイド候補を育成したらどうか？
・有料ガイドの基準をどこに置くかで今後のジオパークの質にも影響があるのでは
・情報の共有やスキルアップ研修で、人材のレベルアップを図りたい

◎有料ガイドの料金設定について

・人（ガイド）に会いに行く旅を作り出すことができれば、ガイドを指名して訪れる客が増えるのではないか。
・料金を支払ってもらうプロガイドを育成することで、ガイド体制を構築することが重要である。

◎複数のガイド組織の統一等

・各地の個性を考慮すると、組織化するには課題が多い。
　→ 勉強会、交流会でガイド団体間でゆるやかなむすびつきを構築する。傘になるような存在（＝コーディネータ役）が必要である。

■総　括：小川コーディネータより総括があった。

・今回は対策を考えるよりも各地で実践している人の課題を明らかにすることを目的にしたいと考えていたが、その目的は達成されたのではないかと思う。
・ガイドに質の向上が求められているが、良いジオパークガイドとは何か、評価する基準が定められていないということである。ジオパークが求める理想のガイド要件も明確な記載はない。これらを明確にすることが必要であり、このような声は各地域から上にあげていく必要を感じる。

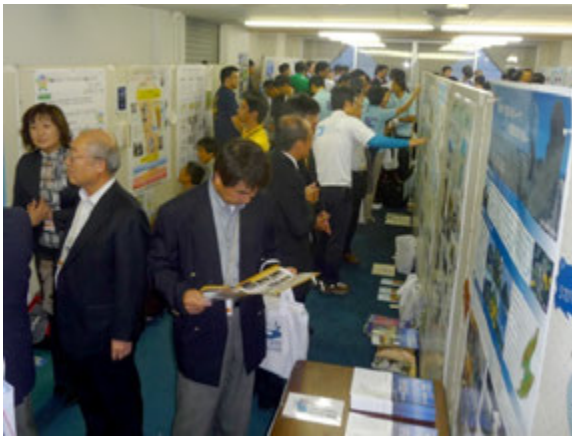
ポスターセッション

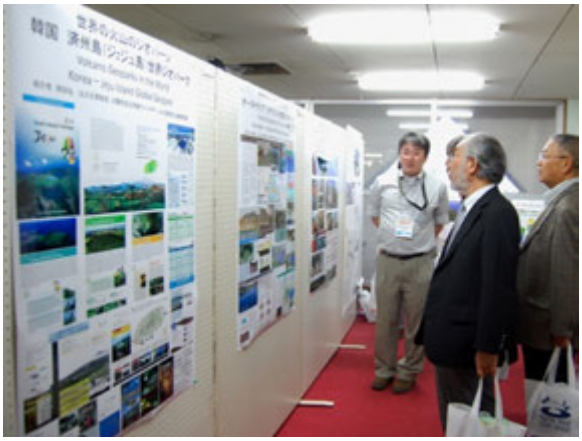
日本全国のジオパーク関係者やジオパークに関心のある人が一堂に会して、各ジオパークの知恵や取り組みを共有することを目的とし、大会期間中、皆様からご提出いただいたポスターを展示し多くの方に見ていただくとともに、コアタイムでは活発な意見交換を行いました。

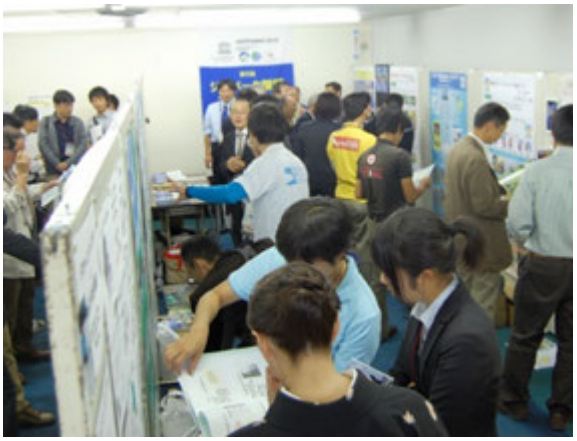
展示会場	北海道洞爺湖サミット記念館４階	
日　　程	9/28	12:00～18:00
	9/29	9:00～18:00（17:00～18:00　ポスターセッションコアタイム）
	9/30	9:00～18:00
	10/1	9:00～14:00

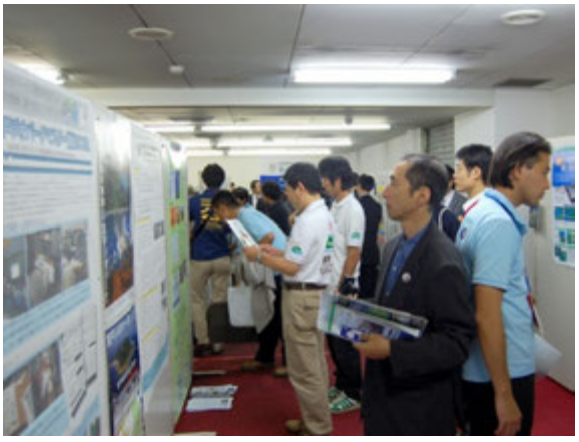
コアタイム

9 月 29 日 17 時から一時間のコアタイムには大勢の方が参加され、ポスターを前に、至る所で質疑応答や情報交換が行われていました。参加者同士が直接対話をしながら互いの取り組みを知る大変有意義な時間となりました。









発表者一覧

ポスター発表者数は以下のとおりです。事前に発表要旨をご提出いただいた分については発表抄録集にまとめ、大会プログラムとともに配付しました。

以下に発表者の人数と発表者一覧を示します。

ポスター展示参加者集計		
日本ジオパーク関係者	25 地域	29 点
洞爺湖有珠山地域団体等	33 団体・個人	52 点
その他	5 団体・個人	5 点
合　計	63 団体・個人	86 点

地 域	発表者	発表テーマ
洞爺湖有珠山ジオパーク（52）	工藤正彦、原口ゆみ子、野呂圭一、高橋俊也、加賀谷にれ（洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会）	変動する大地との共生　～洞爺湖有珠山ジオパーク～
	工藤正彦、原口ゆみ子、野呂圭一、高橋俊也、加賀谷にれ（洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会）	大地の変動の歴史を体感　～洞爺湖有珠山ジオパーク～
	宇井忠英、岡田弘、廣瀬亘（洞爺湖有珠山ジオパーク学識顧問）、加賀谷仁左衛門、安藤忍、角田隆志、福田茂夫（洞爺湖有珠火山マイスター）、渡邊晶子、広田達郎（環境防災総合政策研究機構）	洞爺湖有珠山ジオパークガイド
	宇井忠英、岡田弘（洞爺湖有珠山ジオパーク学識顧問）、渡邊晶子（環境防災総合政策研究機構）	洞爺湖有珠山世界ジオパークの解説看板
	岡田弘（洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会学識顧問）	世界の火山ジオパーク　インドネシアバリ島バトゥルカルデラジオパーク
	岡田弘（洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会学識顧問）	世界の火山ジオパーク　アイスランドカトラ世界ジオパーク
	岡田弘（洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会学識顧問）	世界の火山ジオパーク　南米チリアラウカニアジオパーク
	岡田弘（洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会学識顧問）	世界の火山ジオパーク　韓国済州島世界ジオパーク
	岡田弘（洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会学識顧問）	世界の火山ジオパーク　オーストラリアカナウィンカ世界ジオパーク
	岡田弘（洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会学識顧問）	世界の火山ジオパーク　ドイツアイヘル火山世界ジオパーク
	岡田弘（洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会学識顧問）	変動する大地・・変動する大地「有珠山」を北西より望む
	岡田弘（洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会学識顧問）	変動する大地・・有珠山南西外輪山より三町ドーム群を望む
	岡田弘（洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会学識顧問）	変動する大地・・火口原展望台からおがり山の隆起
	岡田弘（洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会学識顧問）	変動する大地・・有珠山北山麓の火山性活断層
	岡田弘（洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会学識顧問）	変動する大地・・繰り返された災害；木の実の沢

地 域	発表者	発表テーマ
洞爺湖有珠山ジオパーク（52）	廣瀬亘（北海道立総合研究機構 地質研究所）	洞爺湖有珠山ジオパーク：学識経験者としての役割
	香河正人（八雲町立山崎小学校長）	1977 年噴火後の有珠山の変容とその後の噴火に対する防災について
	東達朗（北海道森林管理局 後志森林管理署）	有珠山の治山「失われた森林の復元」
	北海道胆振総合振興局	ワンダーいぶり★ネイチャーＭＡＰ
	吉田卓司（環境省 洞爺湖自然保護官事務所）	ジオパークと国立公園
	吉田卓司（環境省 洞爺湖自然保護官事務所）	洞爺湖有珠山ジオパークと支笏洞爺国立公園
	北海道開発局 室蘭開発建設部	一般国道２３０号　復旧の変遷①
	北海道開発局 室蘭開発建設部	一般国道２３０号　復旧の変遷②
	北海道開発局 室蘭開発建設部	樽前山における火山砂防事業の取組①
	北海道開発局 室蘭開発建設部	樽前山における火山砂防事業の取組②
	北海道開発局 室蘭開発建設部	シーニックバイウェイ北海道に関する取組①
	北海道開発局 室蘭開発建設部	シーニックバイウェイ北海道に関する取組②
	佐茂厚美、阿部秀彦、立野広志（洞爺湖有珠火山マイスターネットワーク）	学びと伝えの実践者「洞爺湖有珠火山マイスター」
	加賀谷仁左衛門（洞爺湖有珠火山マイスター）	有珠山の身近な植物
	唐澤圭（独立行政法人土木研究所 寒地土木研究所 寒地水圏研究グループ）	有珠山緑の再生「緑はどうなった？」授業
	三谷智広（洞爺湖町教育委員会）	アプタ・フレナイの会 ―縄文の「食」の探求―
	角田隆志（洞爺湖町教育委員会）	洞爺湖町縄文キッズクラブの活動
	中谷麻美（洞爺湖町教育委員会）	「洞爺湖芸術館友の会」の活動
	藤井安澄 （洞爺湖ビジターセンター等利用協議会）	ジオパークのフィールドへいざなう体験活動プログラム ～実践例の紹介～
	河野圭、蛯名雄一（壮瞥町教育委員会）	壮瞥町子ども郷土史講座
	佐藤忞（NPO 法人そうべつエコミュージアム友の会 ガイド部会）	NPO 法人そうべつエコミュージアム友の会活動 ～地域に根ざした活動とジオパーク支援を目ざして～
	三松三朗、鈴木邦子、田鍋敏也（特定非営利活動法人 そうべつエコミュージアム友の会）	ジオパークを支える「友の会」の活動
	鈴木邦子（壮瞥町やまびこ図書室ボランティアポピーの会）	洞爺湖有珠山ジオパーク ～クイズにチャレンジ！～
	小西重勝（豊浦町郷土研究会）	洞爺湖有珠山ジオパーク（豊浦町エリア） ～太古の火山性地勢が育む縄文から現代への山道ジオツーリズムの展開～
	馬場俊治（有珠山ガイドの会）	有珠山ガイドの会
	木原敏秋、森近恭子（洞爺カルデラクラブ）	壮瞥のリンゴ
	洞爺湖カルデラクラブ会員	洞爺湖に育まれて
	木村益巳、篠原盛雄（森と水と人ネットワーク）	有珠山山体崩壊が創った「有珠の多様な自然」
	オコンシベの会	北黄金貝塚におけるボランティアガイドの役割
	伊達市噴火湾文化研究所	伊達市開拓記念館・迎賓館解説ボランティアくわの会
	有珠観光ボランティアの会	有珠観光ボランティアの会

地 域	発表者	発表テーマ
洞爺湖有珠山ジオパーク（52）	横山誠之（伊達市立黄金小学校）	2000 年有珠山噴火「その時学校は」―洞爺湖温泉小学校の記録―
	大西和哉、作田崇明、高橋美千也、玉井皓也、中島智大、宮本景造、阿野令那、市川菜摘、犬島恵実、大上莉奈、田伏桃子、庭坂風帆、松井美嘉、山崎華菜、瀬戸さやか、山戸貴博、川上泰彦（壮瞥中学校２学年）	総合的な学習の時間『まるごと観光』
	洞爺湖温泉小学校 2～3 年生①	とうやこ生きものマップ
	洞爺湖温泉小学校 2～3 年生②	もし、森林公園にウチダザリガニが侵入してきたら
	洞爺湖温泉小学校 5 年生	洞爺湖周辺の自然（壁新聞）
	洞爺湖温泉小学校 6 年生	外来生物を考える（ポスター）
	大和田涼太、松本健吾、庄司理沙子、高木晃、飛山英里奈、山本奈穂（北海道室蘭栄高等学校 3 年）	有珠山研究
白滝ジオパーク（1）	熊谷誠・堀嶋英俊（遠軽町総務部ジオパーク推進課）、梁瀬邦之（遠軽町立白滝小学校）	遠軽町立白滝小学校における「石育（いしいく）」の取組み
アポイ岳ジオパーク（2）	車田利夫、原田卓見（様似町アポイ岳ジオパーク推進協議会）	アポイ岳ジオパーク「ふるさとジオ塾」：ゼロからのガイド養成
	新井田清信（北海道大学理学研究院地球惑星システム科学）	アポイ岳ジオパークの岩石鉱物標本の有効利用
いわて三陸地域（1）	伊藤仁、松本潤（いわて三陸ジオパーク推進協議会・岩手県政策地域部地域振興室）	東日本大震災と「三陸ジオパーク構想」の現状と課題
八峰白神地域（1）	工藤英美（八峰白神ジオパーク推進協議会）	白神山地はなぜ高い？ ～マグマがもたらす恵み～　八峰白神ジオパーク構想
男鹿半島・大潟ジオパーク（1）	竹内弘和・薄井伯征・白石建雄（男鹿半島・大潟ジオパーク推進協議会）	男鹿半島・大潟ジオパーク構想
湯沢地域（1）	沼倉誠（湯沢市ジオパーク推進協議会）	美の郷ゆざわジオパーク構想
磐梯山ジオパーク（1）	佐藤公（磐梯山噴火記念館）、竹谷陽二郎（福島県立博物館）、蓮岡真（磐梯山ジオパーク協議会）・第 12 回地震火山こどもサマースクール実行委員会	第 12 回地震火山こどもサマースクール「磐梯山のお宝さがし」
茨城県北ジオパーク（1）	齋藤勝男（茨城大学社会連携課）	茨城県北ジオパークが日本ジオパークネットワークに認定
下仁田ジオパーク（1）	関谷友彦、大河原順次郎、神戸良治（群馬県下仁田町教育委員会ジオパーク推進室）	多様な大地の変動を体験できる下仁田ジオパーク
秩父ジオパーク（1）	宮城敏、吉田健一（秩父まるごとジオパーク推進協議会事務局）	多様な地質に寄り添う固有の風土
伊豆大島ジオパーク（1）	野村昌宏、西谷香奈（伊豆大島ジオパーク推進委員会事務局）	伊豆大島ジオパーク
箱根地域（1）	青山朋史（箱根ジオパーク推進協議会事務局）	北と南をつなぐ自然のみち、東と西をつなぐ歴史のみち －箱根ジオパーク構想の実現に向けて－
佐渡地域（1）	市橋弥生、佐々木勉、宇治美徳、神蔵勝明（佐渡市教育委員会社会教育課ジオパーク推進室）	目指せ！世界ジオパーク！ －佐渡市の取り組み－
糸魚川ジオパーク（1）	竹之内耕、大嶋利幸、鳥越寛子（糸魚川ジオパーク協議会・糸魚川市交流観光課ジオパーク推進室）	真の姉妹ジオパークを目指して －糸魚川ジオパークと香港ジオパークの姉妹提携－
白山手取川ジオパーク（1）	山口隆、小阪大、日比野剛（白山市教育委員会ジオパーク推進室）	白山手取川地域のジオパークに関する活動

地 域	発表者	発表テーマ
恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク（1）	木下裕基（福井県勝山市企画財政部未来創造課ジオパーク推進室）	恐竜渓谷ふくい勝山ジオパークにおけるジオツーリズムの実践と課題
伊豆半島ジオパーク（1）	伊豆半島ジオパーク推進協議会	「南から来た火山の贈りもの」　伊豆半島ジオパーク構想と実現への取組
南アルプスジオパーク（1）	山崎大行、小池温（南アルプス世界自然遺産登録推進協議会ジオパーク推進部会）	南アルプス（中央構造線エリア）ジオパークの取組
山陰海岸ジオパーク（2）	今井ひろこ（NPO たじま海の学校、香美町ジオパーク推進員）	ジオ・インタープリターと地域での取り組み
	今井裕子（香美町海の文化館）、松原典孝（山陰海岸ジオパーク推進協議会）、新名阿津子（とっとり総研）	ジオコミュニケーション推進グループによるチラシの作成
隠岐ジオパーク（1）	野辺一寛（隠岐ジオパーク推進協議会事務局）	ジオツーリズムによる新たな観光形態の創出と協議会の自立に向けた取り組み
室戸ジオパーク（2）	柚洞一央（室戸ジオパーク推進協議会）	室戸ジオパークにおける住民参画の現状と問題点―「新しい公共」時代におけるジオパークを目指して―
	柴田伊廣（室戸ジオパーク推進協議会）	室戸ジオパークマスター講座の工夫
阿蘇ジオパーク（1）	佐藤義興、渡辺一徳、坂元英俊、池辺伸一郎、石松昭信（阿蘇ジオパーク推進協議会）	阿蘇ジオパークにおける特徴的なジオサイト
島原半島ジオパーク（2）	荒木強、杉本伸一 （島原半島ジオパーク推進連絡協議会）	古式漁法「スクイ（石干見）」の保全と活用
	松井彩花、喜多真望（長崎県立島原商業高等学校）	私たちのふるさとづくり ～島原半島ジオパークを盛り上げよう！～
天草御所浦ジオパーク（1）	鵜飼宏明（天草御所浦ジオパーク推進協議会事務局・天草市立御所浦白亜紀資料館）	ジオパーク地域の連携イベントの一例
霧島ジオパーク（1）	坂之上浩幸、池田圭介 （霧島ジオパーク推進連絡協議会）	霧島ジオパークでのジオガイド養成について
その他団体・個人（5）	林信太郎（秋田大学教育文化学部）	ジオパークにおけるキッチン・ジオ実験活用の可能性
	山本隆太（早稲田大学）	ジオパークの教育における地図の利用
	定池祐季（北海道大学大学院理学研究院附属地震火山研究観測センター）	噴火からの復興とジオパークによる地域振興―有珠山周辺地域を例に
	松本英明、鈴木拓也、西田武 （北海道地図株式会社）	ペーパークラフト立体マップの開発
	西田武、本宮康年、堤啓（北海道地図株式会社）	「ジオパークぶらり」を利用してジオパークをもっと楽しもう

特別展示

地 域	発表者	内　容
洞爺湖有珠山ジオパーク	そうべつ情報館ｉ、NPO 法人 CeMI	火山の立体地図展示
	掛川源一郎（写真家・故人）	有珠山の写真パネル展示
	毛利寛蔵（元壮瞥町町議会議長・故人）	有珠山 1977・78 年の写真パネル展示

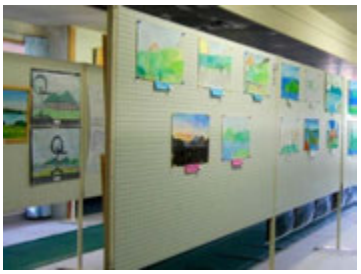
展　示

フォトコンテスト入賞作品

第１回洞爺湖有珠山ジオパークフォトコンテストは、本大会開催を契機に企画され、変動する大地、豊かな生態系や大地の恵み、人々の歴史・文化など、洞爺湖有珠山ジオパークの魅力を伝える作品を募集しました。道内外の皆様から 140 点に及ぶ応募があり、厳正な審査の結果、最優秀賞１名、優秀賞２点、北海道知事賞１点、日本ジオパークネットワーク理事長賞１点、入選 11 点が選定されました。また、アポイ岳ジオパークで実施された「第１回さまに写真コンテスト」の入賞作品も併せて展示しました。

第１回洞爺湖有珠山ジオパークフォトコンテスト
■募集期間：2011 年 7 月上旬～8 月 15 日
■審査委員：板垣春美（伊達市写真連盟会長）ほか 7 名
■応募者数：43 名（道内 39 名、道外 4 名（静岡県、滋賀県、栃木県））
■応募総数：140 点（道内 125 点、道外 15 点）
■受賞者・作品数：14 名／16 点

児童生徒作品



洞爺湖有珠山ジオパークでは、次世代を担う子ども達に、学校教育や地域活動を通じて自分たちが暮らす地域の特徴を知り、地域への愛着と誇りをもち、必ず起こるであろう次の噴火に備え、減災知識や経験を伝承していくことを大切に考えています。洞爺湖有珠山ジオパークの地元の子ども達が、授業などで取り組んだ地域に関する学習成果や地域の魅力を描いた絵画作品を展示しました。

地域	学校名	展示物
豊浦町	豊浦小学校、大岸小学校、礼文華小学校、大和小学校、豊浦中学校	俳句
壮瞥町	壮瞥小学校、久保内小学校	絵画、工作
洞爺湖町	虻田小学校、洞爺湖温泉小学校、とうや小学校、洞爺湖温泉中学校	壁新聞、絵画、調べ学習のまとめ
室蘭市	室蘭栄高校	研究のまとめ

JGN理事会／臨時総会

ＪＧＮ理事会
9 月 28 日(水)　16:00～17:30
北海道洞爺湖サミット記念館 3 階

ＪＧＮ臨時総会
9 月 28 日(水)　18:00～19:30
北海道洞爺湖サミット記念館 3 階

※「北海道洞爺湖サミット」(2008 年) で使用されたテーブル・椅子

JGN登録事前相談会

9 月 29 日(木)、洞爺サンパレスにおいて翌年度申請地域事前相談会を行いました。世界及び日本ジオパーク申請地域を２会場に分け、地域の活動状況を説明後、相談の形式で実施しました。

世界申請地域

参加者：　阿蘇ジオパーク３名
担　当：　ＪＧＣ中川（・渡辺)、ＪＧＮ関係者４名

日本申請地域

参加者：　八峰白神地域３名、湯沢地域１名、箱根地域７名、
伊豆半島地域４名、美祢地域５名
（傍聴：佐渡３名、むつ３名、鹿追３名）

担　当：　ＪＧＣ佃・渡辺（・中川)、ＪＧＮ関係者４名

ジオ・フェスティバル

ジオ・フェスティバルは、道内の学校の理科教員をはじめ研究機関や企業の方々が、子どもたちに地球科学や自然に関心を深めてもらおうと道内を巡回しながら実施している科学フェスティバルです。今回は本大会に合わせて洞爺湖ビジターセンターを会場に開催。地質、気象、防災などをテーマとした親子向け体験・実験屋台が約 20 ブース出展し、地域の親子連れ約 150 名が実験や展示に参加しました。

同時に、ＪＧＮ主催の「ジオパークキッズ探検隊」が開催されました。あいにくの悪天候のためジオサイト探検は、ビジターセンターの展示および火山科学館見学でのジオパーク解説と切り替わりましたが、子どもたちは謎解きやジオパークカードを通して、洞爺湖有珠山ジオパークを親しみ、楽しんでいました。

実験ブース「火砕流について知ろう」

実験ブース「琥珀をみがこう」

実験後、３択クイズに挑戦。
正答ならジオパークカードを渡す

床一面に広がる洞爺湖有珠山の空撮写真を見ながらジオパークを学ぶキッズ探検隊

一瞬の晴れ間を利用して、なぞ解きの答えを求めて火口眺めるキッズ探検隊の子どもたち

ジオパークカードを集めて眺める

物販等

〈ジオの恵み物産展〉

〈ジオパーク関連商品〉

〈おもてなしブース〉

出 店 ： NPO 法人だて観光協会、NPO 法人豊浦観光ネットワーク、NPO 法人そうべつ観光協会、社団法人洞爺湖温泉観光協会、様似町、遠軽町、豊浦町商工会、洞爺温泉郵便局

JGN賛助会員 ： (株)グリーンデザイン、(株)フォトハイウェイジャパン、北海道地図(株)

大会プログラム

A1 歴史・文化体験コース
A2 2000 年噴火遺構コース
A3 昭和新山登頂周回コース

① 9月28日(水)

時間	ジオツアー	展示会場【サミット記念館４階】	その他
11:50	ジオツアー		
12:00	A1 / A2 / A3	12:00〜17:00 ポスターセッション フォトコンテスト入賞展示 児童生徒作品展示	
15:30			
16:00			16:00〜17:30 JGN 理事会 【サミット記念館３階】
17:00			
17:30			
18:00			18:00〜19:00 JGN 臨時総会 【サミット記念館３階】
19:00			
19:30			19:30〜21:30 JGN 懇親会 【洞爺観光ホテル】
21:30			

B1 中学校野外学習見学コース

② 9月29日(木)

時間	メイン会場【洞爺湖文化センター】	展示会場【サミット記念館４階】	その他
8:30			8:30〜12:00 ジオツアー
9:00			
9:30			9:30〜11:30 JGN 登録 事前相談会 【洞爺サンパレス】
11:30			
12:30	日本ジオパーク情報交換会 開会 日本ジオパーク認定証授与式 日本ジオパーク新規認定地域取組発表	9:00〜18:00 ポスターセッション フォトコンテスト入賞展示 児童生徒作品展示	
15:00	コーヒーブレイク		
15:20	日本ジオパーク委員会情報提供 日本ジオパーク事例発表		
16:30			
17:00		17:00〜18:00 ポスターセッション コアタイム	
18:00			
18:30			18:30〜20:30 全体交流会 【洞爺湖万世閣】
20:30			

③ 9月30日(金)

時間	メイン会場【洞爺湖文化センター】	展示会場【サミット記念館4階】	その他
9:00		9:00〜17:00 ポスターセッション フォトコンテスト入賞展示 児童生徒作品展示	
9:30			9:30〜11:30　分科会 第1分科会【洞爺サンパレス】 第2分科会【洞爺観光ホテル】 第3分科会【北海ホテル】 第4分科会【洞爺湖畔亭】
11:30			11:30〜21:00 ジオの恵み物産展 【洞爺湖文化センター 正面玄関前】
12:30	フォーラム第Ⅰ部 開会 オープニングアトラクション フォトコンテスト入賞者表彰 地元児童生徒による取組発表		
14:15	コーヒーブレイク		
14:30	シンポジウム ・基調講演①（岡田弘氏） ・基調講演②（大島直行氏） ・パネルディスカッション（渡辺真人氏ほか）		
17:00			
17:30	大会成果発表		
18:00			
18:30	フォーラム第Ⅱ部 開会 オープニングアトラクション 講演（倉本聰氏） 鼎談（伊藤和明氏、倉本聰氏、三松三朗氏）		
20:30			

C1　歴史・文化体験コース
C2　1944年・1977年噴火遺構コース
C3　2000年噴火遺構コース
C4　アポイ岳ジオパークコース

④ 10月1日(土)

時間	ジオツアー	展示会場【サミット記念館4階】	その他
8:30	ジオツアー		
9:00	C1 C2 C3 C4	9:00〜14:00 ポスターセッション フォトコンテスト入賞展示 児童生徒作品展示	10:00〜14:00 ジオ・フェスティバル ジオパークキッズ探検隊 【洞爺湖ビジターセンター】
10:00			
11:30			11:30〜14:00 ジオの恵み物産展 【洞爺湖文化センター 正面玄関前】
12:00			
14:00			

C4：10/3 終了

大会参加状況

全体参加者数

区　分	内　訳	参加者数
参加者	申込み（122 団体）	284
	来　賓	14
	市町議員	32
	出演者	42
393	プログラム協力者（パネリスト等）	21
主催者	組織委員会・実行委員会	37
	スタッフ　（行政・団体職員、ガイド）	203
256	〃　　（ボランティア）	16
報　道		
22	16 社	22
	合　計	671

ポスターセッション出展数	申込み（63 団体）	86 点

参加者内訳（地域別）

地　域	参加者数
JGN会員	
アポイ岳ジオパーク	16
糸魚川ジオパーク	20
南アルプスジオパーク	2
山陰海岸ジオパーク	13
室戸ジオパーク	6
島原半島ジオパーク	11
恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク	10
隠岐ジオパーク	3
阿蘇ジオパーク	2
天草御所浦ジオパーク	4
白滝ジオパーク	17
伊豆大島ジオパーク	5
霧島ジオパーク	15
男鹿半島・大潟ジオパーク	11
磐梯山ジオパーク	9
茨城県北ジオパーク	10
下仁田ジオパーク	5
秩父ジオパーク	3
白山手取川ジオパーク	4

地　域	参加者数
JGN準会員	
湯沢市地域	20
八峰白神地域	4
古関東深海盆地域	2
箱根地域	7
伊豆半島地域	9
佐渡地域	5
美祢地域	5
西予地域	2

その他の地域	
北海道中頓別地域	5
北海道鹿追地域	4
下北半島地域	3
岩手三陸地域	3
その他	8

参加者内訳（プログラム別）

日程・プログラム		参加者数
9/28（水）		
プレジオツアー		97
	A1（歴史・文化体験（豊浦方面））	32
	A2（2000 年噴火遺構）	31
	A3（昭和新山）	34
ＪＧＮ事業		
	理事会	45
	臨時総会	103
	懇親会	97
9/29（木）		
ジオツアー	B1（中学校野外見学コース）	31
事前相談会		34
全体交流会		305
ポスターセッション		272
9/30（金）		
分科会		248
	第 1 分科会「ジオパークと観光」	72
	第 2 分科会「ジオパークと防災」	58
	第 3 分科会「ジオパークと教育」	62
	第 4 分科会「ガイド活動」	56
ポスターセッション		240
講演会（概数）		800
10/1（土）		
ジオツアー		177
	C1（歴史・文化体験（伊達方面））	32
	C2（1944・1977 年噴火遺構）	46
	C3（2000 年噴火遺構）	91
	C4（アポイ岳）	8
ポスターセッション		43
ジオ・フェスティバル（概数）		150

大会までのあゆみ

※青網掛けは大会関連の取り組み

2010（平成 22）年

6. 1	洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会：総会 第 2 回日本ジオパーク全国大会開催地として立候補することを承認	伊達市消防・防災センター
7. 28	日本ジオパークネットワーク正副会長会議 **第 2 回日本ジオパーク全国大会開催企画案 提出**	東京都
8. 21	日本ジオパークネットワーク臨時総会 **第 2 回日本ジオパーク全国大会開催地に正式決定** 	新潟県糸魚川市
8. 31	洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会：学識顧問会議、教育・普及委員会、ガイド／住民委員会	そうべつ情報館 i
10. 4	洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会：ガイド/住民委員会	そうべつ情報館 i
10. 27	洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会：教育・普及委員会	そうべつ情報館 i
11. 12	洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会：観光委員会、ガイド／住民委員会	そうべつ情報館 i
12. 1	洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会：学識顧問会議、教育・普及委員会	そうべつ情報館 i

2011（平成 23）年

1. 12	洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会：幹事会	そうべつ情報館 i
1. 24	洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会：教育・普及委員会	そうべつ情報館 i
1. 25	洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会：臨時総会 **第 2 回日本ジオパーク洞爺湖有珠山大会組織委員会・実行委員会 設立**	伊達市消防・防災センター
2. 1	第 2 回日本ジオパーク洞爺湖有珠山大会実行委員会：幹部会議	壮瞥町役場大会議室
2. 17	第 2 回日本ジオパーク洞爺湖有珠山大会実行委員会（第 1 回） 	壮瞥町役場大会議室
2. 21	洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会：行政委員会	そうべつ情報館 i
2. 23	洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会：学識顧問会議、教育・普及委員会	そうべつ情報館 i
3. 2	第 2 回日本ジオパーク 洞爺湖有珠山大会プレイベント 講演会「縄文～ジオパーク・世界遺産としての価値を探る～」開催 （講師：大島直行氏） 	壮瞥町地域交流センター 山美湖
3. 11	第 2 回日本ジオパーク洞爺湖有珠山大会実行委員会：幹部会議	そうべつ情報館 i

3. 23	洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会：教育・普及委員会	そうべつ情報館 i
3. 30	洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会：臨時総会（書面） （役員の選任・規約改正）	—
4. 11	洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会：ガイド／住民委員会	そうべつ情報館 i
4. 20	第２回日本ジオパーク洞爺湖有珠山大会 **開催案内（ファーストサーキュラー）発信**	—
4. 28	洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会：教育・普及委員会	そうべつ情報館 i
4. 29	第２回日本ジオパーク洞爺湖有珠山大会プレイベント ジオツアー 昭和新山学習登山会（主催：そうべつエコミュージアム友の会）	昭和新山
5. 10	（仮称）北海道ジオパークネットワーク連絡会議	様似町役場
5. 14	第２回日本ジオパーク洞爺湖有珠山大会プレイベント ジオツアー 有珠山学習会（主催：そうべつエコミュージアム友の会）	有珠山
5. 18	洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会：行政委員会	そうべつ情報館 i
5. 25	洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会：ガイド／住民委員会	そうべつ情報館 i
5. 27	洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会：総会 **第２回日本ジオパーク** **洞爺湖有珠山大会組織委員会** **大会事業計画、予算について承認** 	伊達市消防・防災センター
6. 2	第２回日本ジオパーク洞爺湖有珠山大会：顧問会議／科学・学術部会 （学識顧問会議、教育・普及委員会と兼ねて開催）	そうべつ情報館 i
6. 3	洞爺湖有珠火山マイスター養成講座（座学）	伊達市消防・防災センター
6. 4	洞爺湖有珠火山マイスター養成講座（野外学習会）	有珠山
6. 8	洞爺湖温泉飲食店組合説明会	北海道洞爺湖サミット記念館 ２階町民ホール
6. 18	ジオツアー「2000 年噴火遺構コース」	西山山麓火口散策路ほか
6. 19	ジオパーク勉強会 「1944 年・1977 年噴火遺構と 大地の恵みコース」 	昭和新山、有珠山ほか
6. 24	第２回日本ジオパーク洞爺湖有珠山大会実行委員会：おもてなし部会 （観光委員会と兼ねて開催）	北海道洞爺湖サミット記念館 ２階町民ホール
6. 28	第２回日本ジオパーク洞爺湖有珠山大会実行委員会：科学・学術部会 （教育・普及委員会と兼ねて開催）	そうべつ情報館 i
7. 5	第２回日本ジオパーク洞爺湖有珠山大会実行委員会：幹部会議	そうべつ情報館 i
7. 6	第２回日本ジオパーク洞爺湖有珠山大会組織委員会／実行委員会 ：事務局会議	そうべつ情報館 i
7. 10	洞爺湖有珠火山マイスター認定審査会	洞爺湖周辺

7. 13	第２回日本ジオパーク洞爺湖有珠山大会 **開催案内（セカンドサーキュラー発信）**	—
7. 30	ジオパーク勉強会「歴史・文化体験コース（噴火湾岸東エリア）	北黄金貝塚公園ほか
7. 31	ジオツアー「歴史・文化体験コース（噴火湾岸西エリア）	入江高砂貝塚、カムイチャシ史跡公園ほか
8. 1	第２回日本ジオパーク洞爺湖有珠山大会実行委員会：科学・学術部会 （教育・普及委員会と兼ねて開催）	そうべつ情報館ｉ
8. 3	第２回日本ジオパーク洞爺湖有珠山大会実行委員会：おもてなし部会	そうべつ情報館ｉ
8. 8	北海道ジオパーク切手　発売	—
8. 4-14	オール北海道ジオパークイベント開催	千歳アウトレットモールRera
8. 15	第１回洞爺湖有珠山ジオパークフォトコンテスト締切り	—
8. 22	第２回日本ジオパーク洞爺湖有珠山大会組織委員会／実行委員会 ：事務局会議	そうべつ情報館ｉ
8. 31	第２回日本ジオパーク洞爺湖有珠山大会実行委員会：ジオツアー部会 （ガイド／住民委員会と兼ねて開催）	そうべつ情報館ｉ
9. 3	第２回日本ジオパーク洞爺湖有珠山大会実行委員会：科学・学術部会 （教育・普及委員会と兼ねて開催）	そうべつ情報館ｉ
9. 3	第２回日本ジオパーク洞爺湖有珠山大会プレイベント 講演会「人類と火山」開催（講師：石黒 耀氏） 主催：そうべつエコミュージアム友の会	壮瞥町地域交流センター山美湖
9. 7-8	倉本聰氏との打ち合わせ	富良野市
9. 9	第２回日本ジオパーク洞爺湖有珠山大会実行委員会：おもてなし部会	そうべつ情報館ｉ
9. 28	第２回日本ジオパーク全国大会洞爺湖有珠山大会 プレジオツアー	各ジオサイト
	日本ジオパークネットワーク理事会／臨時総会	北海道洞爺湖サミット記念館
9.29-10.1	**第２回日本ジオパーク全国大会洞爺湖有珠山大会　開催**	
10. 1	ジオ・フェスティバル開催	洞爺湖ビジターセンター
11. 8-12. 5	洞爺湖有珠山ジオパークフォトコンテスト4市町巡回写真展	

オール北海道（３地域）の取り組み

道内のジオパーク３地域（洞爺湖有珠山、アポイ岳、白滝）でツアー、ＰＲ事業等を共同実施することにより、道内ジオパークの連携、ブランド強化を狙い、また全国大会のＰＲを兼ね、次の事業実施しました。

JTB 企画モニターツアー

「北海道ジオパークをめぐる旅」（３地域、各１泊２日）

第１回　白滝ジオパークコース

2011 年 9 月 6 日(火)～7 日(水)

～火山活動が生み出した黒曜石と石器文化を知る～

第2回　アポイ岳ジオパークコース

2011 年 9 月 20 日(火)～21 日(水)

～地球深部(マントル)のかんらん岩と歴史に触れる～

第3回　洞爺湖有珠山ジオパークコース

2011 年 9 月 30 日(金)～10 月 1 日(土)

～地球の鼓動を感じ、大地との共生を体感～

ジオパークPRイベント in 千歳アウトレットモール　レラ

期　　間：平成 23 年 8 月 4 日～14 日

場　　所：千歳アウトレットモールレラ

来場者数：(期間中) 30, 000 人

内　　容：パネル展示、パンフレット配置、石器づくり、
抽選会（地場産)、キャラクターによる PR

第１回洞爺湖有珠山ジオパークフォトコンテスト 巡回作品展

第１回洞爺湖有珠山ジオパークフォトコンテストの入賞作品をジオパーク内の１市３町で巡回展示しました。写真コンテストの結果を周知するとともに、様々な視点から撮影された写真を通してジオパークの魅力を発信しました。

期間・開館時間	会　場	
11/8(火)～14(月) 9:00(初日 12:00)～17:30	【壮瞥町】 道の駅そうべつ情報館ｉ　1階 （壮瞥町字滝之町 384-1）	
11/15(火)～21(月) 7:00(初日 12:00)～18:00	【洞爺湖町】 JR 洞爺駅交流センター1 階 多目的ホール （洞爺湖町旭町 19）	
11/22(火)～28(月) 平日：8:45(初日 12:00)～21:00 土日：9:00～17:00	【伊達市】 伊達信用金庫本店 1 階ホール （伊達市梅本町 39-30）	
11/29(火)～12/5(月) 9:00(初日 12:00)～21:00	【豊浦町】 豊浦町地域交流センター 「とわにー」 （豊浦町字幸町 87-9）	

地域の取り組み

第２回日本ジオパーク全国大会洞爺湖有珠山大会 特典提供店

協　　力：洞爺湖温泉飲食店組合

期　　間：平成 23 年 9 月 1 日～10 月 1 日

協力店舗数：35 店舗

特 典 内 容：飲食割引、ビール・ソフトドリンクサービス等

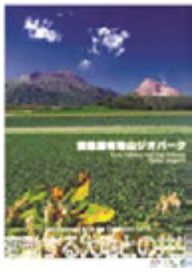
大会参加者への配布物

案内チラシ

大会プログラム・抄録集

大会フォーラムプログラム

大会宣言

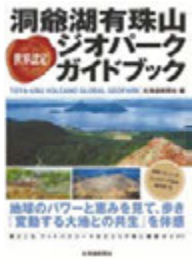

総合パンフレット

三つ折りパンフレット

ラ・トウヤ

洞爺湖有珠火山マイスターパンフレット

ボルカノ



洞爺湖有珠山ジオパークガイドブック

様似パンフレット

遠軽町埋蔵文化財センターリーフレット

室蘭民報「全国大会特集号」

てぬぐい

バッグ

大会機構図

組織委員会【開催準備、運営、事業企画、推進等】

◎名誉委員長：北海道知事　　◎名誉副委員長：ＪＧＣ委員長、ＪＧＮ理事長
〇委員長：ジオ協会長　　〇副委員長：２名（同副会長）　〇監事：２名（同監事）
●ジオ協構成員：構成市町首長・教育長、協議会委員会委員長、アドバイザー
●委　　員：ＪＧＣ／ＪＧＮ事務局、様似町長、遠軽町長

顧問【意見、助言】
協議会学識顧問

実行委員会【実務推進組織】

委員長：１名、　副委員長：３名、　委員：若干名
（洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会委員
洞爺湖有珠火山マイスター　　等）

専門部会　（各部会長１名、副部会長：若干名、専門委員：若干名）

《科学・学術部会》	《おもてなし部会》	《ジオツアー部会》
〇基調講演、分科会、ポスターセッション等に関する検討（内容、講演者・発表者選定等） 〇事例発表に関する検討（発表地域選定、フォーマット作成等） 〇児童生徒の関与方法検討 〇コンテスト企画、審査	〇地域・北海道の魅力の発信 〇コンテスト企画、審査 〇まちなみ整備（花壇整備、清掃等） 〇宿泊、飲食の調整	〇ジオツアーの行程検討、ガイドの配置
〇基調講演・シンポジウム、分科会 〇事例発表　〇児童・生徒関係	〇アトラクション、体験イベント　〇コンテスト　〇ブース出展（地場産品等）	〇ジオツアー（プレイベント含む）

住民ボランティア

事務局【総括、連絡調整、財務、広報渉外 等】

構成市町（伊達市、豊浦町、洞爺湖町、壮瞥町）関係課　／　様似町、遠軽町関係課

《運営補助》　NPO 法人環境防災研究機構北海道

大会組織委員会名簿

【組織委員会】

機　関　名	職　名	氏　名	役　職
北海道	知事	高橋はるみ	名誉委員長
日本ジオパーク委員会	委員長	尾池　和夫	名誉副委員長
日本ジオパークネットワーク	理事長	米田　　徹	名誉副委員長
洞爺湖町	町長	真屋　敏春	委員長
豊浦町	町長	工藤　國夫	副委員長
社団法人洞爺湖温泉観光協会	会長	若狭　洋市	副委員長
伊達市	市長	菊谷　秀吉	監事
壮瞥町	町長	佐藤　秀敏	監事
伊達市教育委員会	教育長	有田　　勉	
豊浦町教育委員会	教育長	田中　了治	
壮瞥町教育委員会	教育長	田鍋　敏也	
洞爺湖町教育委員会	教育長	綱嶋　　勉	
北海道開発局室蘭開発建設部	部長	髙橋　総一	
北海道胆振総合振興局	局長	石橋　秀規	
北海道教育庁胆振教育局	局長	寺脇　文康	
北海道地方環境事務所	所長	吉井　雅彦	
北海道森林管理局後志森林管理署	署長	入口　　了	
ＮＰＯ法人 環境防災総合政策研究機構	理事	松尾　一郎	
日本旅行業協会北海道支部	支部長	落合　周次	
日本ジオパーク委員会	事務局員	渡辺　真人	
日本ジオパークネットワーク	事務局員	齋藤　清一	
様似町	町長	坂下　一幸	
遠軽町	町長	佐々木修一	

【顧　問】

機　関　名	氏　名
北海道大学名誉教授、NPO法人環境防災総合政策研究機構　理事	宇井　忠英
伊達市噴火湾文化研究所　所長	大島　直行
北海道大学大学院理学研究科附属　地震火山研究観測センター　准教授	大島　弘光
北海道大学名誉教授、NPO法人環境防災総合政策研究機構　理事	岡田　　弘
北海道大学名誉教授	勝井　義雄
室蘭工業大学　環境防災工学講座　准教授	後藤　芳彦
北海道大学大学院地球環境科学研究院　統合環境科学部門　地球温暖化評価分野　教授	露崎　史朗
北海道大学大学院理学研究院　自然史科学部門 地球惑星システム科学分野　教授	中川　光弘
北海道総合研究機構　環境・地質研究本部　地質研究所　研究主任	廣瀬　　亘
三松正夫記念館　館長	三松　三朗

【実行委員会】　各 50 音順

委 員 長 ：三松 三朗
副委員長 ：大島 直行、阿野 光弘、小川 裕司

氏　名	職・専門部会	所属・職名
三松　　三朗	実行委員長	NPO 法人そうべつエコミュージアム友の会代表理事
科学・学術部会　（※洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会 教育普及委員会）		
宇井　　忠英	委員	北海道大学名誉教授、NPO 法人環境防災総合政策研究機構 理事
大島　　直行	副委員長（部会長）	伊達市噴火湾文化研究所長
岡田　　弘	委員	北海道大学名誉教授、NPO 法人環境防災総合政策研究機構 理事
加賀谷仁左衛門	委員（副部会長）	洞爺湖有珠火山マイスター
田鍋　　敏也	委員	内閣府火山防災エキスパート
角田　　隆志	委員	洞爺湖町教育委員会社会教育課学芸員
横山　　光	委員	北海道立教育研究所附属理科教育センター研究研修主事
吉田　　卓司	委員	環境省 北海道地方環境事務所 洞爺湖自然保護官事務所 自然保護官
おもてなし部会　（※洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会 観光委員会）		
阿野　　光弘	副委員長（部会長）	NPO 法人そうべつ観光協会会長
岡崎　　訓	委員	NPO 法人洞爺まちづくり観光協会理事長
小野　　政男	委員	NPO 法人豊浦観光ネットワーク理事長
河原　　文博	委員	NPO 法人だて観光協会会長
後藤　　洋子	委員	社団法人洞爺湖温泉観光協会ディレクター
澤登　　勝義	委員（副部会長）	洞爺湖町観光振興課長
壽浅　　弘幸	委員	伊達市観光連盟会長
乗松　　良治	委員	NPO 法人大滝まちづくり観光協会理事長
ジオツアー部会　（※洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会 ガイド、住民委員会）		
安藤　　忍	委員	洞爺湖有珠火山マイスターネットワーク代表
小川　　裕司	副委員長（部会長）	（株）洞爺ガイドセンター代表取締役
小西　　重勝	委員	豊浦町郷土研究会会長
酒井　　卓晃	委員	うす観光ボランティアの会会長
佐久間　重行	委員（副部会長）	オコンシベの会代表
馬場　　俊治	委員	有珠山ガイドの会事務局
藤川　　栄治	委員	洞爺湖町観光振興課参事（洞爺湖ＶＣ・火山科学館施設長）
若林　　伸一	委員	NPO 法人自然体験学校理事長
―	委員	くわの会

【事務局】

役割（内容）	所　属	氏　名
○事務総括 （ＪＧＮ/ＪＧＣ関係事業、関係機関等との連絡調整、財務、広報渉外等）	壮瞥町総務課 〃　　ジオパーク推進室	工藤 正彦（事務局長） 原口 ゆみ子、高橋 俊也、 加賀谷 にれ
	洞爺湖町観光振興課	野呂 圭一
各市町内で実施される事業総括 （関係機関、団体との連絡・調整、広報、各種手配等）	洞爺湖町企画防災課 伊達市企画財政部企画課	大西 康典、兼村 憲三 石澤 高幸、中村 順也
	豊浦町企画調整課	多田 正司、藤原 弘樹
	様似町商工観光課	佐々木 泰、原田 卓見、 車田 利夫
	遠軽町総務部 〃　　ジオパーク推進課	佐藤 優、堀嶋 英俊、 熊谷 誠

事務局スタッフ名一覧

■伊達市

阿部正義、荒井一夫、安藤隆、石秀隆、大西亮子、加藤久士、上村一眞、甲斐直樹、酒井拓、坂元正光、篠原進、篠原計浩、代田顕靖、鈴木俊仁、成田秀樹、深田千博、藤田勲、藤盛芳浩、山田大樹、渡邊和大　（順不同）

■洞爺湖町

青葉エリカ、秋山祐二、猪股幸子、大西記代、大西慎、岡崎尚弘、片岸昭弘、金子信之、川越大助、木村慎一、黒澤博美、小林真奈美、佐久間豊憲、佐々木勉、佐藤久志、佐藤融、澤登勝義、末永弘幸、菅原行義、鈴木清隆、仙波貴樹、大楽泰生、高木淳市、高橋淳一、高橋憲史、武川正人、田所昭博、田仁孝志、永井宗雄、西代光明、浜中正志、原信也、原美夏、春名宣寛、平間剛志、藤川英之、藤川安永、藤野征憲、細江幸恵、山田恒平、見付敬蔵、宮古義信、村上友和、若木渉　（順不同）

■壮瞥町

阿部正一、庵匡、石塚季男、今川智子、上名正樹、蛯名雄一、大野博雄、小田圭介、加納翼、河野圭、木下薫、小林一也、齋藤誠士、篠原賢司、篠原真吾、清野直樹、武岡忍、武川太郎、谷永直樹、坪田こまち、伝法誠、堂下洋紀、中塚いおり、細川貴弘、三松靖志、谷田部剛、山崎清輝、山本貴浩、和田勝洋　（順不同）

■豊浦町

石川荘輔、板垣周平、井上政信、上野純尚、久保雄資、斉藤智宏、桜沢隆、佐々木真、杉谷佳昭、高橋英昭、立川祐也、橋田正二、東畑一、福田茂夫、二ツ森博幸、細木輝雄、本所淳、宮崎優亮、渡辺亮太　（順不同）

■北海道胆振総合振興局

石田英雄、板倉祥一、宇惠野克彦、大鐘貴之、加賀谷宏、金田秀行、木戸紀子、小熊勝彦、佐々木邦暁、佐々木光浩、澤田慎也、白木和美、菅原伸一、曽根宏之、冨田英樹、中村康子、西澤正、早坂早苗、松岡宏一、本宮勢津雄、薬袋浩之、山下賢一、山田晃弘、吉川寿代、吉田典広　（順不同）

■住民ボランティア

大広君枝、太細裕次、笠井誠、北田美桜子、作山淑一、鈴木邦子、鈴木龍夫、鈴木敏明、谷岡典子、中店忠志、藤田房子、森近恭子　（順不同）

※事務局でとりまとめた名簿をもとに掲載しています。大会開催間際の変更等については、反映されていない場合がありますので、予めご了承願います。

関係機関等一覧

主　催

第２回日本ジオパーク洞爺湖有珠山大会組織委員会、財団法人自治総合センター

後　援

総務省、外務省、文部科学省、日本ユネスコ国内委員会、農林水産省、経済産業省、環境省、観光庁、
気象庁、国土交通省国土地理院、北海道開発局、北海道、北海道教育委員会、北海道大学、
室蘭工業大学、酪農学園大学、独立行政法人産業技術総合研究所、特定非営利活動法人防災情報機構、
社団法人全国地質調査業協会連合会、財団法人国立公園協会、一般財団法人自然公園財団、
財団法人北海道市町村振興協会、社団法人北海道観光振興機構、日本第四紀学会、
一般社団法人日本地質学会、公益社団法人日本地震学会、特定非営利活動法人日本火山学会、
社団法人日本地理学会、日本人類学会、一般社団法人日本考古学協会、北海道新聞室蘭支社、
室蘭民報社、日本経済新聞社札幌支社、朝日新聞北海道支社、毎日新聞北海道支社、
読売新聞北海道支社、ＮＨＫ室蘭放送局、テレビ北海道、札幌テレビ放送、北海道文化放送、
北海道テレビ、ＡＩＲ－Ｇ’エフエム北海道

協　賛

日本ジオパーク委員会、日本ジオパークネットワーク、北海道地図株式会社

協　力

サッポロビール株式会社北海道本社、北海道コカ・コーラボトリング株式会社、北海道地図株式会社、
セブンイレブン洞爺湖温泉店、洞爺湖温泉飲食店組合、あぷたフレナイの会

広報宣伝

横断幕

《会場前正面入口》

《道の駅あぷた（洞爺湖町）》
ほか地域内道の駅 全６ヵ所

《JR伊達駅》
ほかJR洞爺駅 全２ヵ所

のぼり

啓発資材作成一覧

種　類	数量（枚）	設置場所
チラシ	20, 000	
ポスター	1, 000	
のぼり	100	洞爺湖有珠山ジオパークミュージアム・インフォメーション、洞爺湖温泉街、壮瞥町商店街等
大会告知横断幕	8	会場入口、JR駅（伊達紋別、洞爺）、道の駅（だて歴史の杜、あぷた、とようら、そうべつ情報館 i、とうや湖）
プログラム	1, 500	シンポジウム参加者
抄録集	1, 000	大会参加者
ジオパーク応援ステッカー	35	洞爺湖温泉飲食店組合加盟店

広報誌等大会関連記事掲載状況

市町名	掲載号	市町名	掲載号
広報だて	平成 23 年 8 月号～11 月号	広報そうべつ	平成 23 年 3 月号～12 月号
広報とようら	平成 23 年 7 月号～11 月号	広報とうや湖	平成 23 年 2 月号～10 月号

	掲載誌
広告 （第２回日本ジオパーク洞爺湖有珠山大会組織委員会）	北海道新聞：平成 23 年 9 月 12 日（夕刊）、9 月 13 日（朝刊） 9 月 16 日（朝刊） 室 蘭 民 報：平成 23 年 9 月 14 日（朝刊）
「みなさんの道政」 （北海道庁）	室 蘭 民 報：平成 23 年 9 月 24 日（朝刊） 苫小牧民報：平成 23 年 9 月 24 日（朝刊）

全国大会・ジオパーク関連 新聞記事一覧

No.	掲載日	社 名	朝・夕	主 な 見 出 し
2010（平成22）年				
1	4. 13	北海道新聞	朝刊	「歴史観光」道内外に発信 胆振総合振興局 ツアー企画やガイド本
2	4. 13	北海道新聞	朝刊	有珠山観光振興に力 ジオパーク会議開幕 岡田名誉教授が報告
3	4. 13	室蘭民報	朝刊	「観光客呼び込みに力」胆振総合振興局石橋局長強調 ジオパークを軸に
4	4. 14	北海道新聞	朝刊	昭和新山楽しもう・ジオパーク空から眺めよう
5	4. 14	室蘭民報	朝刊	24 日昭和新山登山会を開催
6	5. 12	室蘭民報	朝刊	「圏域一つ」合宿誘致 地域力もてなし 資源生かし利便性追求
7	5. 20	読売新聞	朝刊	道が先進施策構想「北海道モデル」観光など6分野
8	6. 2	オントナ		ココ行ってみて! ガイド（洞爺湖近隣の観光スッポト紹介）
9	6. 2	北海道新聞	朝刊	知名度向上へ学習会 ジオパーク推進協 公式デザイン画製作
10	6. 9	北海道新聞	朝刊	噴火のつめ跡見て学ぶ「洞爺湖有珠山ジオパーク」を歩く
11	6. 12	室蘭民報	朝刊	ジオパーク 魅力よ売り込め・壮瞥の観光協が特集マップ 推進協も初製作
12	6. 16	北海道新聞	夕刊	旅行商品化へ視察会で PR 業者招き貝塚や火口見学、食もアピール
13	6. 18	北海道新聞	朝刊	「噴火遺構」の要所紹介 ・この味 焼きカレーサミット
14	6. 23	室蘭民報	朝刊	旅行商品売り出しを ジオパークでモニターツアー プロの目でチェック
15	6. 24	北海道新聞	朝刊	「奥洞爺湖温泉郷」に壮瞥、蟠渓、北湯沢商工会、小規模業者プロジェクトが始動
16	6. 24	北海道新聞	朝刊	アジアから観光客を（中） ツアー多様化 薬局巡り、学校訪問も
17	6. 27	室蘭民報	朝刊	地球の鼓動体感 ジオパーク認定記念 有珠山学習会
18	7. 1	北海道新聞	朝刊	中国人ビザ発給拡大・追い風狙う温泉地 入浴マナー講座■留学生を通訳に
19	7. 1	室蘭民報	朝刊	揺らめく明かりの下自然を見つめ直そう 2 日からキャンドルナイト
20	7. 1	北海道新聞	夕刊	黒曜石遺跡群を PR ジオパーク大使 白滝小6年生
21	7. 2	北海道新聞	朝刊	自然ガイド活躍 エコツーリズム推進 客に魅力伝え、安全に案内
22	7. 6	北海道新聞	朝刊	洞爺湖カルタ完成
23	7. 7	室蘭民報	朝刊	「洞爺湖カルタ」販売
24	7. 8	室蘭民報	朝刊	大もて北黄金貝塚 修学旅行、団体客でにぎわう
25	7. 13	室蘭民報	朝刊	10月「縄文グルメバスツアー」
26	7. 14	北海道新聞	朝刊	森ガール・山ガール
27	7. 16	室蘭民報	朝刊	世界ジオパーク販売促進に活用 推進協議会 地域ブランド化を検討
28	7. 17	北海道新聞	朝刊	教育、観光増える訪問者 昭和新山登り好評
29	7. 19	北海道新聞	朝刊	気象の知識キャンプで学ぶ
30	7. 20	室蘭民報	夕刊	有珠山噴火学ぶ～ジオ・キャンプ in 室蘭
31	7. 22	北海道新聞	朝刊	地場産品に光るアイデア
32	7. 22	北海道新聞	朝刊	縄文文化の本質を探る
33	7. 22	室蘭民報	朝刊	「教育観光」に光明も（滝川高生が火山学習）洞爺湖有珠山ジオパーク
34	7. 29	北海道新聞	朝刊	地質遺産 料理で PR 6日から8店で提供へ
35	7. 30	室蘭民報	朝刊	ジオパーク食べ歩こう「フードパス」6 日スタート
36	8 月	北海道新聞	朝刊	案内解説板の充実を 専門家 外国客配慮も求める

37	8 月	北海道新聞	朝刊	文人も魅了奇岩の絶景（礼文華海岸とカムイチャシ）
38	8. 2	室蘭民報	朝刊	4 市長独自の魅了拡充進む 世界ジオパーク認定 1 年
39	8. 3	北海道新聞	朝刊	小学生新聞グランプリ テーマは有珠山噴火
40	8. 7	北海道新聞	朝刊	土曜トーク そうべつ観光協会の観光コーディネーター 小尾さん（ジオパークの魅力PR）
41	8. 12	北海道新聞	朝刊	洞爺湖有珠山地域・世界ジオパーク認定 1 周年記念公開講座
42	8. 13	北海道新聞	朝刊	ジオパークの魅力札幌で PR 登録 1 年記念講座やパネル展
43	8. 16	北海道新聞	朝刊	ジオパーク登録 1 年 噴火の仕組みお菓子で実験 岡田名誉教授が札幌で子ども向け講座
44	8. 19/24/27	北海道新聞	朝刊・夕刊	洞爺湖有珠山ジオパーク 第 1 回公開講座「知ってる? ジオパーク」
45	8. 20	北海道新聞	夕刊	洞爺湖の魅力を紹介 温泉誕生 100 年で冊子作製
46	8. 21	室蘭民報	朝刊	縄文文化市民の手に 地域力もてなし オコンシベの会 官民で支える史跡貝塚
47	8. 21	室蘭民報	朝刊	国内初のジオパーク大会 胆振西部からも参加 糸魚川で開催
48	8. 22	室蘭民報	朝刊	「生きた自然」楽しく学ぶ ジオ・キャンプ in 室蘭
49	8. 23	糸西タイムスほか	朝刊	日本ジオパーク糸魚川大会 武田鉄矢さんら魅力解説
50	8. 24	室蘭民報	朝刊	武家文化市民の心に 地域力もてなし くわの会 迎賓館の魅力伝えたい
51	8. 24	北海道新聞	朝刊	増える外国人観光客 知名度着実に上昇 ガイド育成など課題も
52	8. 25	室蘭民報・道新	朝刊	来年のジオパーク大会開催地「洞爺湖有珠山」に決定 国内 28 地域、参加者千人
53	8. 25	北海道新聞	朝刊	「エコツーリズム」ノウハウ地方に 環境省 専門家派遣し支援へ
54	8. 26	室蘭民報	朝刊	洞爺湖の水中七不思議撮影 噴火などで神秘的絶景 新たな魅力発信へ
55	8. 29	北海道新聞	朝刊	洞爺湖有珠山 世界ジオパーク 1 年「大地の変動実感を」札幌で講座 山の威力紹介
56	9. 2	北海道新聞	朝刊	ジオパークの活用方法探る
57	9. 2	北海道新聞	朝刊	登別洞爺広域観光圏協 シニア、家族も誘致 整備計画修正案を提示
58	9. 3	室蘭民報	朝刊	地質遺産で情報交換 火山系博物館職員ら参加
59	9. 7	北海道新聞	朝刊	観光振興計画を策定 推進協 16エリアごとに整備 案内板も増設
60	9. 8	室蘭民報	朝刊	ジオサイト整備承認 新観光ルートの開発も ジオパーク推進協議会臨時総会
61	9. 9-10	北海道新聞	朝刊	映画「しあわせのパン」洞爺湖で撮影開始 大泉洋・原田知世
62	9. 12	室蘭民報	朝刊	産業・自然魅力あふれるマチづくり 伊達、洞爺湖、豊浦、壮瞥、胆振西部1市3町
63	9. 12	室蘭民報	朝刊	ジオパーク活動 広がる 洞爺湖有珠山で来年「全国大会」
64	9. 15	北海道新聞	朝刊	日本ジオパーク「白滝」など3地域認定 道内では3ヶ所目 高知・室戸では「世界」申請
65	9. 15	北海道新聞	朝刊	丘陵に縄文人の暮らし 北黄金貝塚公園で太古に触れる 発掘を公開中
66	9. 16	室蘭民報	朝刊	映画「しあわせのパン」クランクイン 地元食材で炊き出し
67	9. 16	北海道新聞	朝刊	映画スタッフ「しあわせな昼食」
68	9. 15-26	北海道新聞	朝刊	洞爺湖の七不思議 ■1～7
69	9. 18	北海道新聞	朝刊	洞爺湖有珠山世界ジオパーク 1 年「変動する大地堪能を」地域の魅力を紹介
70	9. 27	室蘭民報	朝刊	正確な噴火予測課題 有珠山 10 周年フォーラム 若手研究者が講演
71	9. 27	北海道新聞	朝刊	洞爺湖有珠山ジオパーク 1 周年記念公開講座「知ってる? ジオパーク」
72	10 月	北海道新聞	朝刊	室蘭夜景 道外 PR 観光推進連絡協議会 3都市 ツアーにぜひ
73	10. 4	北海道新聞	夕刊	多彩な自然環境知って 推進協が札幌で講座 噴火の歴史など紹介

74	10. 9	北海道新聞	朝刊	地域振興高まる期待 白滝が日本ジオパーク認定 三松さんが指摘 欠かせぬ熱い語り部
75	10. 10	北海道新聞	朝刊	サケつかみ捕り 東京に歓声 サッポロビール、初の収穫祭
76	10. 13	北海道新聞	朝刊	東京でホタテ釣り大人気 サッポロビール主催「北海道はうまい! 北の大収穫祭」
77	10. 13	北海道新聞	朝刊	有珠・アイヌ文化前面に 登別洞爺広域協 観光圏整備の修正案
78	10. 14	北海道新聞	朝刊	登別洞爺広域協 観光圏整備計画を決定 連泊客の増加目指す
79	10. 15	北海道新聞	朝刊	観光振興動き出す地域 Qちゃんファームの実り
80	10. 25	室蘭民報	朝刊	先人たちの世界観～上～自然とともに生きる「縄文遺跡」貴重な財産 大島所長
81	10. 28	室蘭民報	朝刊	先人たちの世界観～下～私たちの理解が大切 求められる質高い勉強 大島所長
82	10. 27-1. 18	北海道新聞	夕刊	私のなかの歴史 地域の減災を願って①～⑰ 火山学者 岡田 弘氏
83	10. 31	北海道新聞	朝刊	「山ガール」商戦も盛況
84	11 月	日本経済新聞	朝刊	新しい観光仕掛ける アニメや地域資源活用
85	11. 2	北海道新聞	朝刊	洞爺湖有珠山火山マイスター 5 人合格 計 16 人に
86	11. 14	室蘭民報	朝刊	ジオパーク勉強会 小学生ら登山と実験 チョコで溶岩ドーム再現
87	11. 19	北海道新聞	朝刊	旧大岸金山何がある?火山マイスター研修 砂金集めも挑戦
88	11. 20	北海道新聞	朝刊	豊浦のカムイチャシ ピリカノカ指定へ 町民「誇れる財産発信」
89	11. 23	室蘭民報	朝刊	カムイチャシ国指定名勝へ「ピリカノカ」に追加 年度内にも正式決定
90	11. 25	北海道新聞	朝刊	登別温泉街の名所紹介 QRコード15ヶ所に掲示
91	11. 26	室蘭民報	朝刊	減災の実例学ぶ 胆振総合振興局が岡田名誉教授を招き講演会第2弾
92	11. 26	北海道新聞	朝刊	南蛮みそ味「全国に」振興局主催 地場産フェスで披露
93	11. 29	日本経済新聞	朝刊	集客力アップ試行錯誤 国内初の世界ジオパーク 糸魚川 観光振興の起爆剤に
94	12 月	室蘭民報	朝刊	散策路など整備へ ジオパーク協議会 観光地づくり計画策定
95	12. 4	室蘭民報	朝刊	ジオ・フェスに活動支援補助金
96	12. 8	北海道新聞	朝刊	ジオパーク観光ガイド 技術学ぶ ボランティア交流
97	12. 8	室蘭民報	朝刊	ジオパーク ガイド・観光ボランティア 5団体が初交流「噴火体験も伝えたい」
98	12. 15	室蘭民報	朝刊	来月9日、ジオ・フェスティバル in Muroran 室蘭で初開催「地球の不思議」体験
99	12. 21	日本経済新聞	朝刊	ホテル発バスツアー カラカミ観光、まず定山渓で 団体客不振、滞在型に活路
100	12. 23	室蘭民報	朝刊	ジオパーク推進へ意欲 市町村派遣 道職員と知事懇談

2011（平成 23）年

1	1. 26	室蘭民報	朝刊	今秋の日本ジオパーク大会 開催計画案を了承 推進協臨時総会
2	1. 26	北海道新聞	朝刊	国内大会の実行委設立 官民一体で発信
3	1. 27	北海道新聞	朝刊	道とJR、観光業界 来夏に大型キャンペーン 自然体験・食を全国発信
4	1. 27	日本経済新聞	朝刊	来夏の観光販促 実行委を設立 道や観光機構など
5	1. 27	北海道新聞	朝刊	案内版や標識増設へ 推進協 知名度向上狙う 1, 2年で 200 基計画
6	1. 29	室蘭民報	朝刊	胆振総合振興局長 石橋 秀規氏 滞在型観光に期待 日胆物産展の開催模索
7	1. 31	日本経済新聞	朝刊	ご当地検定 てこ入れ難問
8	2 月	北海道新聞	朝刊	有珠山情報を提供 道の駅そうべつ 800万円かけ機能強化
9	2. 13	北海道新聞	朝刊	推進協がイメージキャラクター 白ずくめ ジオマンよろしく PR活動任務 正体は不明
10	2. 14	北海道新聞	夕刊	その名も謎の「ジオマン」
11	2. 18	室蘭民報	朝刊	ジオパークひと目 ホームページで公開中 推進協、ムービー製作
12	2. 18	北海道新聞	朝刊	ジオツアー開催を提案 壮瞥 全国大会へ初の実行委

13	2. 21	室蘭民報	朝刊	エゾシカ対策やジオパーク大会 3特別チーム設置 胆振総合振興局
14	2. 22	北海道新聞	朝刊	縄文文化の意義 今後も発信 噴火湾文化研究所長大島さん 非常勤で所長残留へ
15	2. 24	室蘭民報	朝刊	洞爺湖の自然、すばらしさ…環境学習の成果 父母ら前に発表 温泉小児童
16	2. 25	北海道新聞	朝刊	縄文遺跡郡の世界遺産登録 機運醸成へ「道民会議」
17	3 月	北海道新聞	朝刊	「縄文～ジオパーク・世界遺産としての価値を探る」噴火湾文化研究所長講演
18	3. 3	日本経済新聞	朝刊	北海道観光振興機構会長 坂本 真一氏 海外にPR、的絞って 国内には冬の魅力発信
19	3. 3	北海道新聞	朝刊	北海道と北東北の縄文ワールド 手を携えて 15遺跡の一体感課題
20	3. 11	北海道新聞	朝刊	観光関係者招き 胆振の遺産巡り 西山火口や民族博物館に
21	3. 11	朝日新聞	朝刊	洞爺湖「胆振の遺産ガイドツアー」地域の「遺産」売り込め
22	3. 23	北海道新聞	朝刊	大規模大会胆振で続々 共進会10万人、ジオパーク千人… 経済効果に期待
23	4. 15	北海道新聞	朝刊	「火山村情報館」が完成ジオパーク魅力発信へ 有珠山ロープウェイ内
24	4. 18	北海道新聞	朝刊	洞爺湖の美 目で耳で 地元の写真家、ピアニストがDVDで住民の心を癒す
25	5 月	室蘭民報	朝刊	噴火災害に連携不可欠 三松正夫記念館長 三松三郎氏 広域非難の想定が必要
26	5. 9	北海道新聞	朝刊	噴火の知識再確認 ジオパーク全国大会控えガイドと現地見学
27	5. 15	室蘭民報	朝刊	ジオパーク全国大会プレ・イベント 大有珠登山、火口を一望
28	5. 19	北海道新聞	朝刊	火山マイスターが独自組織 現地学習会など企画へ ガイド冊子２種発売 推進協
29	5. 23	北海道新聞	朝刊	ガイド育成やツアー開発 推進協がマスタープラン素案 ９月全国大会で倉本聰さん講演も
30	5. 29	北海道新聞	朝刊	火山マイスター養成講座に参加を
31	5. 30	室蘭民報	朝刊	知名度向上を期待 代理店担当者向けツアー そうべつ観光協会
32	6. 1	北海道新聞	朝刊	北海道ひと紀行④ 噴火も地震も、地球が生きているから （三松氏・田鍋氏・田村氏）
33	6. 5	北海道新聞	朝刊	有珠山の壮大さ実感 ジオパーク 洞爺湖でフォーラム 現地巡り 専門家が解説
34	6. 9	北海道新聞	朝刊	洞爺湖 9月に全国大会 ホテル従業員もジオパーク学ぶ
35	6. 10	北海道新聞	朝刊	自然の怖さ、雄大さ実感 五十嵐記者（火山マイスター養成講座）やってみました!
36	6. 12	北海道新聞	朝刊	噴火防災 心構えは 有珠山でマイスター講座
37	6. 17	北海道新聞	朝刊	ジオパークPR熱く 学習ツアー、火山マイスター講座 関連イベント続々
38	6. 20	室蘭民報	朝刊	観光振興探る 女将のもてなし・自然体験学習（北大がフォーラム）
39	6. 23	室蘭民報	朝刊	ジオパーク写真コンテスト開催 組織委が作品募集
40	7. 5	北海道新聞	朝刊	西胆振ご当地キャラ【ジオマン】デザインを具体化
41	7. 10	北海道新聞	朝刊	大島所長が講演 温泉の魅力は女将、湯治。欧米への発信が洞爺再生への鍵
42	7. 12	北海道新聞	朝刊	有珠山火山マイスター 飯田さんら４人合格
43	7. 14	室蘭民報	朝刊	観光創造フォーラム～上～ 大島氏講演 湖と温泉が最大の魅力 自然と文化うまく調和
44	7. 15	室蘭民報	朝刊	観光創造フォーラム～中～ 大島氏講演 次世代は「考える観光」本物の情報世界に発信
45	7. 23	室蘭民報	朝刊	30 日、31 日にジオツアー 参加者を募集
46	7. 26	室蘭民報	朝刊	胆振振興局 有珠山噴火を想定 10 月に大規模防災訓練
47	7. 27	室蘭民報	朝刊	観光客誘致に全力 韓国と台湾で会合 登別洞爺広域圏協
48	7. 28	北海道新聞	朝刊	ジオパーク来てね 推進協が札幌でPR
49	7. 28	北海道建設新聞	朝刊	ジオマン登場洞爺湖有珠山地域の魅力発信 ジオパークを札幌でPR
50	7. 29	室蘭民報	朝刊	胆振西部4市町、札幌で秋のジオパーク全国大会をPR
51	7. 30	室蘭民報	朝刊	初のジオパークフェスタ「星まつり」きょう開幕 ７月 30 日・31日

52	7. 30	北海道新聞	朝刊	胆振総合振興局・日高振興局 食と観光PRへ連携 第1弾 札幌で大型物産展
53	7. 30	北海道新聞	朝刊	イオンクラブが全国大会 洞爺湖の生態系学ぶ 道内外から小学生 142 人参加
54	7. 30	北海道新聞	朝刊	輝くマチへの挑戦㊦ 産業力向上が急務
55	7. 31	室蘭民報	朝刊	自然、夜空、食に感動 ジオパークフェスタ「そうべつ星まつり2011」開幕
56	7. 31	北海道新聞	朝刊	地上の星 さかなに 有珠山山頂にバー 壮観で祭り
57	8. 1	室蘭民報	朝刊	「星まつり」大歓声 頂上からの夜景「最高」
58	8. 2	室蘭民報	朝刊	写真で伝える洞爺湖の四季 写真家 田中正文さん巡回写真展
59	8. 3	北海道建設新聞	朝刊	変動する大地と共生へ 9 月 29 日から洞爺湖町でジオパーク全国大会
60	8. 3	北海道建設新聞	朝刊	洞爺湖有珠山ジオパークフォトコンテスト 8 月 15 日まで作品募集
61	8. 5	室蘭民報	朝刊	自信作どしどし応募を 写真コンテスト 15 日締め切り ジオパーク大会組織委
62	8. 5	室蘭民報	朝刊	洞爺湖町元村議の大西さんが、自ら撮った地域の映像を町に寄贈
63	8. 7	室蘭民報	朝刊	神秘の瞬間20点 写真家 田中正文さんが巡回展
64	8. 8	北海道新聞	朝刊	ジオパークの魅力を写真で表現しよう 推進協が作品募集
65	8. 9	室蘭民報	朝刊	郵便局株式会社が発売「ジオパーク切手」登場 洞爺湖有珠山など
66	8. 9	北海道新聞	朝刊	洞爺湖有珠山、アポイ岳、白滝 ジオパークを切手に 郵便局道支社販売
67	8. 13	北海道建設新聞	朝刊	道内3地域巡るモニターツアー JTBなど企画、大会組織委が後援
68	8. 14	室蘭民報	朝刊	郵便局 ジオパーク切手を推進協に寄贈
69	8. 15	北海道新聞	朝刊	ジオパーク 韓国から視察 済州島の活用法 洞爺湖有珠山参考 散策路や展示施設注目
70	8. 19	北海道新聞	朝刊	文学散歩～⑨～火山記録の情熱今に
71	8. 19	室蘭民報	朝刊	韓国・済州島ジオパーク関係者ら洞爺湖有珠山を視察 観光振興など意見交換
72	8. 22	室蘭民報	朝刊	「ジオパーク」で地域おこしを 全国的に動き広がる 知名度アップや息長い活動が鍵
73	8. 23	室蘭民報	朝刊	ジオパーク全国大会 9 月 30 日 作家・倉本 聰氏講演（入場整理券配布）
74	8. 27	室蘭民報	朝刊	洞爺湖町の議会議員 ジオツアーのコースを視察 全国大会を控え
75	8. 31	北海道新聞	朝刊	自然の猛威学ぼう 石黒 耀氏講演
76	9. 1	室蘭民報	朝刊	ジオパーク全国大会プレイベント 3 日に講演会 石黒 耀氏
77	9. 2	室蘭民報	朝刊	準備着々、地元も期待 ジオパーク 全国大会まで 1ヶ月
78	9. 3	室蘭民報	朝刊	スタッフを募集 ジオパーク洞爺湖有珠山大会実行委員会
79	9. 3	北海道新聞	朝刊	ジオパーク全国大会 ボランティアを募集
80	9. 3	北海道建設新聞	朝刊	変動する大地と共生を 全国大会機に新たな観光づくり ジオパーク推進室原口氏
81	9. 5	北海道新聞	朝刊	噴火災害の猛威解説 作家の石黒氏が講演
82	9. 6	室蘭民報	朝刊	好評「ジオあんまん」商工会青年部、第2弾 上品な甘さで 29 日デビュー
83	9. 9	北海道新聞	朝刊	日本ジオパーク洞爺湖有珠山大会開催記念巡回写真展「洞爺湖物語」田中正文氏
84	9. 10	室蘭民報	朝刊	17 日に「火山と温泉のはなし」
85	9. 13	北海道新聞	朝刊	寒冷期の暮らし探る アイヌ民族遺跡を調査
86	9. 13	北海道新聞	朝刊	第 2 回日本ジオパーク全国大会 洞爺湖有珠山大会
87	9. 14	室蘭民報	朝刊	町職員、町議がジオパークポロシャツを着用 全国大会盛り上げに一役
88	9. 14	北海道新聞	朝刊	町職員、町議が洞爺湖有珠山地域をPRするポロシャツに身を包んだ
89	9 月	室蘭民報	朝刊	くるるん【秋号】いぶりの魅力を再発見!温泉&体験学習&グルメ
90	9. 15	室蘭民報	夕刊	遺跡や地域の魅力語る 伊達市噴火湾研究所・大島所長
91	9. 16	北海道新聞	朝刊	29 日から洞爺湖で全国大会 変動する大地 魅力発信 30地域 400 人が集い交流
92	9. 18	北海道新聞	朝刊	雲仙普賢岳 火山と人共生目指して 名水と温泉噴火の恩恵

93	9. 19	北海道新聞	朝刊	室戸 ジオパークに 国内5件目 ジオパーク全国大会洞爺湖有珠山大会
94	9. 19	室蘭民報	朝刊	世界ジオパーク 室戸を認定 国内5地域目
95	9. 21	北海道新聞	夕刊	異彩 北海道「黒い光」時を超え
96	9. 21	室蘭民報	朝刊	ジオパークなど3事業に 3,900 万円 道地域づくり交付金胆振採択分
97	9. 21/9. 25	北海道新聞	朝刊	洞爺湖有珠山ジオパークガイドブック 北海道新聞社
98	9. 22	北海道新聞	朝刊	会場設営始まる /パネルを搬入/ 地域づくり交付金 84 事業に 4 億円ジオパークPRなど
99	9. 22	北海道新聞	朝刊	作家 石黒耀さん 火山と共生するには 熱・温泉利用原始から
100	9. 22	北海道新聞	朝刊	ジオパーク見どころ満載 洞爺湖有珠山ガイド本発刊
101	9. 23	北海道新聞	朝刊	地元の食代表選手 20 種に 壮瞥でメニュー開発進む
183	9. 23	朝日新聞	朝刊	洞爺湖有珠山で日本ジオパーク全国大会開催
102	9. 23	室蘭民報	朝刊	関連グッズ続々と製作 29 日に全国大会開幕
103	9. 23	室蘭民報	朝刊	「住み良さ」考える 道南ブロック町内会活動大会 19市町が参加
104	9. 23	室蘭民報	朝刊	ジオパークPR協力 市議トーク伊達（千葉薫洞爺湖町議会議員）
105	9. 24	室蘭・苫小牧民法	朝刊	みなさんの道政
106	9. 25	室蘭民報	朝刊	さわやか湖畔の秋 連休好天 人出誘う 各ホテルほぼ満室
107	9. 27	北海道新聞	朝刊	PR奔走 ジオマンに聞く 発信「自然と共生」特産品使った弁当販売も
108	9. 27	北海道新聞	朝刊	クリーンにおもてなし 洞爺湖町職員がごみ拾い
109	9. 27	日本経済新聞	朝刊	昭和新山の地形立体の紙模型に 北海道地図
110	9. 28	北海道建設新聞	朝刊	「日本ジオパーク全国大会」あす開幕 洞爺湖有珠山から発信 ジオツーリズムで地域づくり
111	9. 28	室蘭民報	日刊	「変動する大地との共生」世界に発信 あすからジオパーク全国大会・洞爺湖有珠山
112	9. 29	日本経済新聞	朝刊	日本ジオパーク全国大会 洞爺湖有珠山大会9. 29木～10. 1土
113	9. 29	北海道新聞	朝刊	折って貼って昭和新山 北海道地図が立体模型を発売
114	9. 29	室蘭民報	朝刊	ジオパーク全国大会今日開幕 関係者続々洞爺湖入り「大地との共生」実感
115	9. 30	北海道新聞	朝刊	地質生かす取り組み紹介 洞爺湖町でジオパーク全国大会
116	9. 30	北海道新聞	朝刊	生かせ胆振の自然 〃地質の名所〃一目で 振興局がガイドマップ
117	9. 30	北海道新聞	朝刊	雄大な火山間近に 噴火の力に感嘆 ジオパーク 洞爺湖有珠山大会今日開幕
118	9. 30	室蘭民報	朝刊	観光、防災など意見交換 4会場で分科会 物産展もスタート
119	9. 30	室蘭民報	朝刊	島原の高校生が事例報告「ジオパーク名物作った」地場産品フル活用
120	9. 30	北海道新聞	朝刊	観光、教育にどう活用 生きた火山に関心 各地代表 300 人が意見交換
121	9. 30	室蘭民報	朝刊	全国の活動内容紹介「ポスター展示」始まる サミット記念館
122	9. 30	室蘭民報	朝刊	洞爺湖舞台に開幕 ジオパーク 全国大会 新たに9地域へ認定証
123	9. 30	読売新聞	朝刊	ジオパークと防災 考える 洞爺湖で全国大会開幕
124	9. 30	読売新聞	朝刊	昭和新山 立体で理解 ペーパークラフトの地図発売 北海道地図
125	9. 30	朝日新聞	朝刊	洞爺湖町でジオパーク全国大会開幕
185	9. 30	北海道建設新聞	朝刊	ジオパーク全国大会が開幕 白滝など9地域に認定証
126	10. 1	北海道建設新聞	朝刊	日本ジオパーク全国大会 ジオツーリズムで産業振興 先人の教訓伝承し安全文化構築
127	10. 1	室蘭民報	朝刊	作家・倉本氏「必要なもの見直して」都市型の生活 警鐘
128	10. 1	室蘭民報	朝刊	地質活用、地域づくり考える
129	10. 1	北海道新聞	朝刊	「減災 手本の地に」講演、討論視点幅広く
130	10. 1	室蘭民報	朝刊	ジオパーク宣言を採択「持続可能な地域」掲げ 観光地づくりで意見交換

131	10. 1	日本海新聞	朝刊	防災などテーマに分科会 日本ジオパーク全国大会
132	10. 2	室蘭民報	朝刊	ジオ・フェスティバル in 洞爺で地質や気象に興味津々 親子ら 300 人 実験楽しむ
133	10. 2	室蘭民報	朝刊	ジオパークに合わせ横丁フェスタ 地元の味 一堂に
134	10. 2	北海道新聞	朝刊	ジオパーク全国大会閉幕 火山の仕組み学んだ 実験フェスに児童ら 80 人
135	10. 4	北海道建設新聞	朝刊	洞爺湖有珠山からの発信① 岡田北大名誉教授が講演 災害列島を生き抜く
136	10. 5	北海道建設新聞	朝刊	洞爺湖有珠山からの発信② 噴火湾文化研究所大島所長が講演 知的観光の新資源に
137	10. 5	北海道新聞	朝刊	洞爺湖の中島 湖面彩る美しい山影
138	10. 5	北海道新聞	朝刊	目指せ世界ジオパーク 貴重な地形・地層を観光、教育に
139	10. 5-9	日本海新聞	朝刊	魅力深化 山陰海岸ジオパーク 2 年目の挑戦 ①～⑤
140	10. 6	北海道建設新聞	朝刊	洞爺湖有珠山からの発信③「防災」分科会で意見交換 自然災害と向き合う
141	10. 7	北海道建設新聞	朝刊	洞爺湖有珠山からの発信④「観光」分科会で意識共有 教育の重要性を確認
142	10. 7	室蘭民報	朝刊	「危機感持って」岡田教授 自然災害の備え説く （市議会議長会道南支部研修）
143	10. 7	北海道新聞	朝刊	市議研修会で岡田教授が講演 自然災害 備え学ぶ
144	10. 8	北海道建設新聞	朝刊	洞爺湖有珠山からの発信⑤ パネルディスカッション ジオツーリズムで観光地づくり
145	10. 8	北海道新聞	朝刊	西胆振 空中散歩④ 有珠山火口群 防災学習 生きた教材
146	10. 10	北海道新聞	朝刊	洞爺湖有珠山 ジオパークガイドブック・洞爺湖物語 北海道新聞社
147	10. 11	北海道新聞	朝刊	写真家 田中さん、4 年間活写を写真集に「洞爺湖物語」を北海道新聞社から発行
148	10. 11	北海道新聞	夕刊	「洞爺湖有珠山ジオパークガイドブック」発刊記念イベント 10 月 24 日岡田教授講演
149	10. 13	北海道新聞	朝刊	ジオパーク観光 発展途上 規制区域、行政は安全優先「見せ方、振興の鍵」
150	10. 13	室蘭民報	朝刊	洞爺山水ホテル和風 源泉を使ったせっけん発売
151	10. 14	室蘭民報	朝刊	紅葉シーズン 色づく西胆振
152	10. 15	産経新聞	朝刊	地球の営みとともに生きる 洞爺湖で日本ジオパーク全国大会
153	10. 16	北海道新聞	朝刊	西胆振の魅力学べる一冊「地域資源学習リスト」6 市町教委作成小中70校に配布
154	10. 19	北海道新聞	朝刊	有珠・洞爺の自然学ぶ 小中高生ら 北海道環境学習フェアに 250 人参加
186	10. 19	室蘭民報	朝刊	有珠山噴火想定訓練へ 気象庁の警戒レベル初導入
155	10. 20	室蘭民報	朝刊	洞爺湖町・壮瞥町 世界ジオパーク国内 1 号〝大地の公園〟に注目
156	10. 20	室蘭民報	朝刊	豊浦町 遺跡カムイチャシ「ピリカノカ」に認定
157	10. 25	室蘭民報	朝刊	有珠山噴火想定 400 人参加で総合防災訓練 避難所開設や負傷者を搬送
158	10. 25	北海道新聞	夕刊	洞爺湖有珠山ジオパーク「歴史学び防災に効果」岡田名誉教授が講演
159	10. 26	北海道新聞	朝刊	噴火に備え手順を確認 3 市町で防災訓練
160	10. 26	室蘭民報	朝刊	NPO法人 そうべつエコミュージアム友の会主催 中島散策会で自然との共生考える
161	11. 2	室蘭民報	朝刊	伊達市職員が特別研修 有珠山噴火に備え学習
162	11. 2	北海道新聞	夕刊	伊達市 若手職員 20 人遺構巡り研修 有珠山噴火に防災を学ぶ
163	11. 3	室蘭民報	朝刊	3 地区「奥洞爺温泉郷」ブランド化進む 湯めぐり企画好評、延長に関係者手応え
164	11. 3	室蘭民報	朝刊	6 日に噴火遺構散策会
165	11. 4	北海道新聞	朝刊	洞爺湖有珠山地域 火山の躍動感を満喫（胆振管内洞爺湖町・壮瞥）
166	11. 4	北海道新聞	夕刊	地方版から 噴火の痕跡を実地に確認
167	11. 6	北海道新聞	朝刊	観光リーダーを目指し研修 洞爺湖町で養成セミナー
163	11. 6	赤旗新聞	朝刊	地球の変動 体感 世界ジオパーク 1 億年前の地層は語る
164	11. 8	北海道新聞	朝刊	登別洞爺観光圏協の招待事業 韓国旅行業者が視察 有珠山噴火に興味津々
165	11. 11	室蘭民報	朝刊	観光入りこみ大幅減 上半期 129 万人 ホテル休業、震災影響 夏以降は回復傾向も

166	11. 14	北海道新聞	夕刊	「いぶり×ひだか☆食と観光まつり」 ジオマンも登場し胆振・日高をPR
167	11. 16	室蘭民報	朝刊	西胆振の魅力紹介 登別洞爺広域観光圏協議会が台湾の旅行会社 8 人を招く
168	11. 16	北海道新聞	朝刊	「洞爺湖有珠山ジオの恵み鍋プラン」 洞爺湖温泉 冬のにぎわい 18 日から
169	11. 16	北海道新聞	夕刊	地方版から「プラン」で楽しむ、食と宿泊
170	11. 19	室蘭民報	朝刊	温泉街に幻想の光 洞爺湖温泉にイルミネーショントンネル点灯
171	11. 20	室蘭民報	朝刊	観光入りこみ0. 9%減（昨年度の道内） 洞爺湖 9位
172	11. 23	北海道新聞	朝刊	ジオパーク全国大会でのフォトコンテスト優秀作16点を伊達信金ロビーで展示
173	11. 24	室蘭民報	朝刊	ジオパークの魅力伝える ジオパーク全国大会でのフォトコンテスト巡回展始まる
174	11. 25	北海道新聞	朝刊	有珠山噴火に備え 13 年度までに砂防計画　道の検討委が初会合を開いた
175	11. 25	室蘭民報	朝刊	砂防計画策定目指す 有珠山噴火に備え緊急減災対策検討委初会合
176	11. 27	北海道新聞	朝刊	有珠山噴火に備えを（壮瞥町PTA連合主催）防災教育研究大会 岡田氏・松尾氏が講演
177	11. 29	室蘭民報	朝刊	溝端観光庁長官と関係者が観光振興で意見交わす（洞爺湖町）・豊浦でジオパーク写真展
178	11. 29	北海道新聞	朝刊	写真家 田中正文さん写真集「洞爺湖物語」の出版祝賀会
179	11. 30	室蘭民報	朝刊	壮瞥町の中学生が子ども議会で活発な質疑を繰り広げる
180	12. 15	北海道新聞	朝刊	西胆振 2011 取材メモ ジオパーク全国大会 質高いガイド 称賛の声

全国大会・ジオパーク関連 テレビ/ラジオ番組・掲載誌一覧

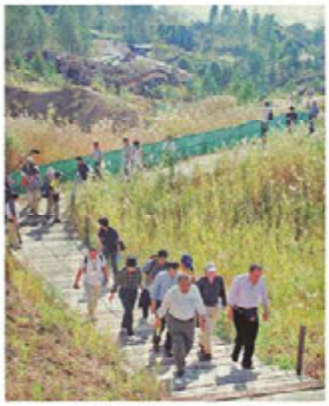
区分	放送・掲載日	番組・掲載誌名		内　容
ラジオ	2011.6.20	ラジネット北海道	FM びゅー、さっぽろウェブラジオ、他	第 2 回日本ジオパーク全国大会 PR
テレビ	2011.6.27	ひるブラ	NHK 総合テレビ	体感！活火山の伊吹～北海道壮瞥町、有珠山・昭和新山～
	2011.7.24	ウィークリー赤レンガ（北海道広報番組）	北海道内各民間テレビ放送局	泊まって遊ぼ！いぶり DAY！いぶり NIGHT！
雑誌等	2010.12	faura（2010 年冬号）	ナチュラリー	ジオパークの恵み 洞爺湖有珠山のスローな旅
	2011.5	ライズ（2011 年 5 月号）	JR 北海道悠遊倶楽部	変動する大地を体感する。洞爺、室蘭
	2011.8	ときめき旅北海道（2011 年夏号）	財界さっぽろ	・地球の鼓動を感じられる場所 洞爺湖有珠山ジオパーク ・縄文浪漫紀行
	2011.8～9	BE―PAL（2011 年 8 月号、9 月号）	小学館	地球を手でつかもう！「ジオパーク」遊び方講座

新聞記事（抜粋）

ジオパーク全国大会きょう開幕

関係者続々 洞爺湖入り

「大地との共生」実感



日本ジオパーク洞爺湖有珠山大会のプレジオツアーで、西山山麓火口散策路を歩くJGN関係者

平成 23 年 9 月 29 日
室蘭民報

洞爺湖舞台に開幕

新たに9地域へ認定証

ジオパーク全国大会

平成 23 年 9 月 30 日　室蘭民報

雄大な火山 間近に

ジオパーク 洞爺湖有珠山大会 きょう開幕

噴火の力に感嘆 参加者がツアー

島原、三宅島の復興は

洞爺湖で「食」も堪能を

噴火災害後の取り組みについて意見し合った火山防災ネットフォーラム

平成 23 年 9 月 29 日　北海道新聞

観光、教育にどう活用

生きた火山に関心 各地300人意見交換

ジオパーク 洞爺湖有珠山大会

平成 23 年 9 月 30 日　北海道新聞

全国の活動内容紹介

「ポスター展示」始まる

洞爺湖

サミット記念館

平成 23 年 9 月 30 日　室蘭民報

観光、防災など意見交換

4会場で分科会

物産展もスタート

平成 23 年 9 月 30 日　室蘭民報

「ジオパーク名物 作った」

島原の高校生事例報告

地場産品フル活用

平成 23 年 9 月 30 日　室蘭民報

都市型の生活 警鐘

作家・倉本氏

「必要なもの見直して」

ジオパーク全国大会

岡田名誉教授も講演

平成 23 年 10 月 1 日　室蘭民報

地質活用、地域づくり考える

洞爺湖有珠山大

平成 23 年 10 月 1 日　室蘭民報

ジオパーク宣言を採択

「持続可能な地域」掲げ

観光地づくりで意見交換

平成 23 年 10 月 1 日　室蘭民報

「減災 手本の地に」

ジオパーク 洞爺湖有珠山大会

講演、討論 視点幅広く

平成 23 年 10 月 1 日　北海道新聞

ジオパーク全国大会閉幕

火山の仕組み学んだ

実験フェスに児童ら80人

平成 23 年 10 月 2 日　北海道新聞

地質や気象 興味津々

ジオパーク全国大会閉幕

親子ら300人 実験楽しむ

平成 23 年 10 月 2 日　室蘭民報

西胆振2011
●取材メモから●

<2>

ジオパーク全国大会

質高いガイド 称賛の声

国内30地域のジオパーク（大地の公園）関係者が集い、9月29日から3日間、洞爺湖町内を中心に開かれた第2回日本ジオパーク全国大会。他地域からの参加者は、住民がガイド役となる洞爺湖有珠火山マイスター制度を高く評価した。外部からの称賛の声で、その存在の重要性を再認識し、先進地としての役割の重さも感じさせる大会だった。

洞爺湖有珠山地域は2009年夏、国内初の世界ジオパークに認定。火山マイスターは08年春から始動。昭和新山や西山山麓火口などの火山や地質、有珠山周辺の縄文遺跡などの歴史的知識も身につける。岡田弘北大名誉教授らが審査委員を務め伊達、洞爺湖、壮瞥、豊浦4市町の住民が審査を経て合格する。有資格者は現在20人。

「これほどレベルの高いガイドを育てる制度はない」と驚く関係者もいた。壮瞥町内の温泉旅館社長、川南恵美子さん(50)は「マイスターとして手探りでツアーガイドなどをしてきた。全国大会で先進的と言われ、自信になった」と喜ぶ。

大会中の分科会では「ガイドの質が観光客の満足度を左右する」「地元住民がガイドすることで、郷土愛も生まれてくる」との指摘もあった。優秀なガイド養成は、全国のジオパーク関係者も重要な課題と考えている。

全国大会を節目に、地元企業の地道な取り組みも広がっている。洞爺湖温泉街のコンビニエンスストアでは、洞爺湖有珠山地域のご当地キャラクター「ジオマン」の絵柄入りボールペンを独自に開発し販売。洞爺湖温泉街のホテル・旅館8施設は今冬、宿泊客が地元食材を味わえる「洞爺湖有珠山ジオの恵み鍋プラン」を勧めた。

一歩先を行く洞爺湖有珠山地域だが、福島第1原発事故の影響などで洞爺湖、壮瞥両町への観光客入り込み数は減り続けている。壮瞥町ジオパーク推進室も「よく比較される世界遺産のように、一気に多くの観光客を呼ぶブランド力はない」と認めながらも、「世界ジオパークの歴史そのものが浅い。息の長い取り組みが必要だ」と話す。

今後は火山マイスターのさらなる増員や制度自体の充実のほか、課題とされる観光振興策などを通し、国内ジオパークの先導役を務め続けることが求められる。（五十嵐俊介）

洞爺湖有珠火山マイスターが活躍した日本ジオパーク全国大会の現地ツアー＝2011年10月1日

平成23年12月15日　北海道新聞

2011・胆振 ニュースを追って ～12～

「大地との共生」探る

地元住民へ着実に浸透

ジオパーク洞爺湖有珠山大会

日本のジオパークを通じた地域づくりを考える「第2回日本ジオパーク全国大会洞爺湖有珠山大会」が9月29日から3日間、洞爺湖町の洞爺湖文化センターをメーン会場に開かれた。大会には世界ジオパーク・ネットワーク（GGN）登録の5地域はじめ、全国30地域のジオ関係者ら延べ2千人が参加し、ジオパークの役割と活用について議論を深めた。

昨年の糸魚川大会（新潟県）に続く、洞爺湖有珠山大会のテーマは「ジオツーリズムを通した観光地づくり～変動する大地との共生～」。メーンフォーラムのほか、「観光」「教育」「防災」「ガイド」といった分野ごとの分科会、ジオツアーが実施され、ジオパークに対する国内の期待や注目度の高まりを感じさせる大会となった。

昨年8月の開催決定から約1年。推進協議会では道内のアポイ岳、白滝のジオパーク2地域とも連携し準備を進めてきた。推進協では開催を機に「地元住民にジオパークを知ってもらうきっかけになった」と浸透に成果があったとみる。

ジオパークに対する認定当初の専門性や学術的な印象は軟化。民間の旅行会社がジオツアーを企画したり、地元の事業者がTシャツなどのグッズを開発し売り出すなど、地域への経済効果も生まれる。

洞爺湖温泉では「この冬、地元食材を使い「ジオの恵み」として、鍋料理付き宿泊プランを打ち出した。食や観光に結びつけるなど、幅広い活用法が広がっている。

東日本大震災の影響で周辺観光地の入り込み客は激減したが、くしくも全国的に防災への関心が高まり、噴火という度重なる自然災害を乗り越えてきた洞爺湖有珠山地域が掲げる「変動する大地との共生」は、今後の地域づくりに求められるキーワードの一つになるだろう。

来年は、GGNによる登録再審査を1年後に控えた大事な年。推進協では、一昨年の世界登録時に指摘されたガイドの組織化や、パンフレットの多言語化―といった項目の改善を進める方針だ。（菅原啓）

ジオパークの役割・活用を考えた洞爺湖有珠山大会。地元への浸透にも成果があった

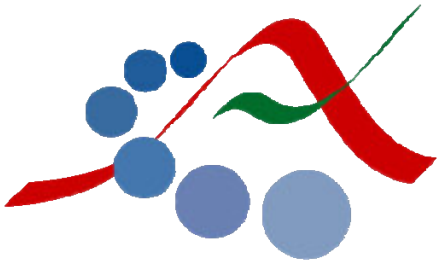
平成23年12月23日　室蘭民報

第 2 回日本ジオパーク全国大会　洞爺湖有珠山大会

ジオツーリズムを通じた観光地づくり　～変動する大地との共生～

報　告　書

発行日　平成 24 年 2 月 23 日
発行者　第 2 回日本ジオパーク洞爺湖有珠山大会組織委員会



第２回日本ジオパーク全国大会　洞爺湖有珠山大会

ジオツーリズムを通じた観光地づくり　～変動する大地との共生～

【事務局】洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会

Tel. 0142-66-4200 / Fax. 0142-66-2800 / E-mail ecogeo@town.sobetsu.lg.jp

URL http://www.toya-usu-geopark.org/